

●モノグラフ

小学生ナウ

Vol. 8-3

父子関係

目次

| | |
|-------------------------------|---------|
| 要約 | 2 |
| 1. 父親論の系譜 | 4 |
| ●引っぱり型の父親となだめ型の母親 | 4 |
| ●トトザとカカザとの分化 | 5 |
| ●役割の分化は普遍的なのか | 7 |
| 2. 調査結果から | 9 |
| ●父親たちの現在 | 9 |
| ●母親との対比の中で | 14 |
| ●父親と母親との違い | 21 |
| ●自信のある父親 | 26 |
| ●子どもの成長につれて | 30 |
| 3. 現代の望ましい父親とは | 37 |
| ●パートナー型の父親の功罪 | 37 |
| ●父親としてとるべき態度 | 39 |
| 地球社会の子どもたち ③ 海外から帰国した子どもたち | 深谷昌志 41 |
| 資料1 調査票見本および集計表 | 46 |
| 資料2 学年・性別集計表 | 58 |

| | | | | |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | 調査レポート | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | 父子関係 | | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | 要約 | | | <input type="checkbox"/> |

放送大学教授 深谷昌志

1. 現代の父親

子どもは思った通りに成長してくれたし(表1)、ロヤかましいが(表3)、奥さんに不満も少ない。(表2)疲れぎみだが(表4)、まあまあの父親だと思う。(表5)



2. 父親と母親の同質化

父親とは母親ほどでないにせよ、子どもは話している。(図3) そうしたふれあいだけでなく、子どもは父母を同質化して見つめている。(図6) そして、父親自身もそうした傾向を認めている。(図5)

なお、体力を除くと、父親も母親も越えにくいという。(表7・図8) また、相談相手として、母親と同じ程度に父親を評価している。(図9)



3. 父親と母親との違い

父親と比べ、母親はうるさい。(表8) そして注意することも多い。(図10) 母親は自分のことをわかってくれているという。(表10・図11)

● 調査概要

1. 調査主題 父子関係

2. 調査視点 父母の同質化が進むと共に中・高校生の中に第二次反抗期の喪失が目につ

く。そうした成長のスタイルの変貌を視野に置きつつ、父親の役割の変化を考えていく。

3. 調査項目 父親と母親を越えることができるか/父親の変化/両親は自分のことをわかってくれているか/子どもの成長など。

4. 自信のある父親

父親のあり方にもっとも影響を与えているのは、仕事への満足感であった。

(表12) 満足感をもって仕事をしている父親は、父親として自信をもち(図13)、越えにくい存在のように見える。

(表13)



5. 子どもの成長につれて

中学生になると、父親と話す機会が減る。(図14) 父親たちが忙しくなり(図15)、仕事への傾斜を強めていくからであろう。(表17)

それと同時に、子どもの父母への評価も微妙な変化を示しはじめる。母親優位の見方から父親の存在を認めた評価となる。(図16) それと共にクールに親を見つめる態度が育っているのが目につく。(図17・表18) そして越えにくい対象として、父親が感じられてくる。(図18) 子どもが小学生から中学生になるにつれ、父親たちが仕事を通して成長してくる。その結果が、父親の存在を子どもが認める態度となったのであろう。

まとめ

心やさしい父親が増加している。そして子どもと仲むつまじい父子関係がみられる。その限りでは父親の姿貌が目につく。しかしそうした父親を支えているのは、仕事に対する満足感だという。社会の中で自信をもって活躍している自信が父親を支え、そうした自信に裏打ちされたかたちでのやさしさである。とすると、父親の実質は外見ほどには変わっていないのかもしれない。



4. 調査時期 昭和62年6月～9月

5. 調査対象 都下および近郊都市の小学校4・6年生と、その父親約2000サンプル。対比を行うために、中学生とその父親約1500サンプルの調査も加えてある。

6. 調査方法 小・中学生は学校で記入を求めた。父親については子どもに自宅へ持って帰ってもらい、記入済みのものを封筒に入れて、学校で回収した。

1. 父親論の系譜



🌿 引っぱり型の父親となだめ型の母親 🌿

父親は変わってきたといわれる。かつて、といってもいつの時代をイメージするかによっても変わってこようが、父親は地震・雷・火事・親父、あるいは厳父慈母などのイメージでとらえられることが多かった。

もちろん厳密な議論を始めると、かつて父親が威厳にみちていたかどうかには疑問が生じる。特に、上級士族を中心とした武家の系譜をひく家庭では、家督が父系を通して継承されていったから、父親の権威が高まっている場合もあろう。しかし多くの民衆の家庭では、古典落語に描かれているように、むしろ家庭の中の実権を握っていたのは母親ではなかったかと思う。

このように父親を強きもの、母親をやさしきものと固定的にとらえるのは危険だが、しかし父親と母親とを異質の存在としてとらえ

る見方は、かなり流布している。先まわりをしてしまえば、父親と母親とを対比して位置づける、そうした両親の姿が揺れ動いている。そして父親と母親との同質化が目立つ。

しかしそうした指摘をする前に、これまでの父親論について復習しておこう。

現在、家族社会学や発達心理学などの研究者が父親を語る時、もっともポピュラーに引用されるのが、アメリカの社会学者・パーソンズの理論であろう。

パーソンズは「道具的」instrumentalと「表出的」expressiveという、なんとも訳しにくい概念を提唱している。この二つの概念は、パーソンズが研究仲間のベールズと共に、小集団を対象とした共同研究を重ねる過程で見いだしたもので、何人かの人間が小さなグループを作って、なんらかの課題を解決しよ

うに
一
だ
る
ク
示
り
よ
り
の
ヒ
バ
ー
役
ス
を
う
自
ら
も
「
ア
・
パ
ー
ソ
ン
ズ
の
理
論
で
あ
ろ
う
。

うというとき、そこには目標を決めてメンバーを引っばるタイプと、さまざまな不満をなだめるタイプという二つのリーダーが生まれるという。具体的には、職場でも趣味のサークルでもよいのだが、つねに新しい目標を提示して、みんなを駆り立てるのが「道具的」なリーダーの役割である。しかし目標を達成しようとするれば、当然オーバーワークになったり、陽のあたる場にいる者といない者との間のあつれき、あるいは能力差に伴う葛藤が生じてくる。そうした不満を聞いてやり、メンバーの気持ちを柔らげてやるのが「表出的」リーダーの役割となる。

通常リーダーシップという概念で、前者の役割を連想することが多い。しかしパーソンズは「道具的」と「表出的」とは、共に集団を維持するのに不可欠のリーダーなのだという。

「道具的」リーダーのみの集団では、一時的に生産性が上がるにしてもメンバーの不満がうっせきして集団から脱落する者が生じ、集団内のモラルが低下していく。それに対し「表出型」リーダーの率いる集団は、和が保たれるかわり、新しい目標が提示されないの、やる気に富んだメンバーが離落するだけでなく、活動が全体として停滞しマンネリ化

していく。したがって「道具的」と「表出的」のリーダーが相互に役割を補充しあい、それぞれの機能を果たすとき、その集団は安定するということである。

「道具的」という用語は、なんとも日本語になじみにくいから、思いきって意識すれば「引っばり型」とでもいえばよいのだろうか。グループの先頭に立ち、目標を示してメンバーを動機づけるリーダーである。それに対し「表出的」は、メンバーの不満を聞き精神的なやすらぎを与える役割であるから、「なだめ型」と訳せばパーソンズの意に則しているかもしれない。

そしてパーソンズは「引っばり型」（道具的）と「なだめ型」（表出的）という役割分化は、家族の中に典型的にあらわれるとみている。そして具体的には、家族の中で「引っばり型の力のある存在」が父親、「なだめ型の力のある存在」が母親となる。さらにいえば、仕事に出て収入を得てくるだけでなく、社会と家庭との間のかけ橋となり、社会的な権威を身につけて、家族を引っばっていくのが父親の役割で、家事や育児だけでなく家庭のメンバーの不満や悩みを聞いてやり、精神的な安定を与えるのが、母親の役割となる。

トトザとカカザとの分化

たしかに、こうした父親と母親との役割分化は、かつての家庭生活を思いおこすと理解しやすいし、それなりの必然性を伴った生活のパターンであった。そして現在の父親論の多くは、そうした父親と母親との役割の分化を前提として、父親がパーソンズのいう「道具的」な役割をいかに果たしているかの観点から、父親論を説く。

日本の場合でも、士族の社会では男子の家督相続制が厳密に守られていたから、女性は嫡子を産むための存在、つまり腹は借りもの的な評価を与えられがちであった。加えて男

性を「天」、女性を「地」とみるような朱子学の思想が浸透していたから、士族の家庭では父親と母親との役割が明確に分離していたのみでなく、母親というより女性は、父親に従属する生活を送っていた。「子なきは去る」に象徴される「七去」、「嫁しては夫に従い」の「三従」などの教えが、たてまえとしてではなく、現実の生活倫理として機能していたのである。

もちろん、明治維新を迎えて士族社会の風習は急速に失われていったが、明治時代を担った高級官僚たちが、下級が多いとはいつて

も、士族出身で占められていたために、士族の流れをくむ父親像は大きな変貌をとげることなく、明治時代はむろんのこと大正や昭和へと受けつがれることになった。

現在でも父親の理想像のひとつに、無口で感情をあらわにせず、毅然たる態度をとる男性の姿がある。そうした父親像の系譜を求めていくと、士族の文化に到達する可能性が強い。

こうした士族の父親像とは別に、もうひとつ庶民の父親像が考えられる。庶民のモデルを、どこに求めるのかはむずかしいところだが、農民の場合、農作業を統轄する父親の権限、つまり「トトザ」と、家庭内のきりもりをする母親の権限、つまり「カカザ」とを分離する慣習があった。もちろん女性たちも農作業に従事してはいるが、それとは別に主婦権が認められていたのである。

地域によって呼び名が異なるようだが、その家の農業を経営する実権が、父親から息子へゆずり渡されるとき、それと並行して家政をきりもりする実権が、姑から嫁へ移動する「杓子わたし」が行われる。

杓子とは、当世風にいえばご飯のもりつけを行うしゃもじにあたる。そして杓子わたしをされた翌日から、嫁はその家の主婦となり、家政の権限のすべてを握る。なにしろ塩や鉄、油などを除く生活用品を、家庭の中で自給自足していた時代である。特に冬場の長い東北や日本海辺などでは、主婦の力量は一家の生死の鍵すら握っていた。

冬場でも冠婚葬祭はあるから、そうしたときのために材料を貯えておく必要があるし、そうでなくとも長い冬を乗りきるのに、食料や燃料を計画的に使わねばならない。主人が勝手に、米びつをあげ、ぜいたくな食事を始めたのでは、冬場をしのげないのである。したがって伝統的に家政をきりもりする主婦の権限は「カカザ」として保証され、主人といえどもそれをおかすことはできなかった。

つまり農作業担当の権限を主人が、そして家政を主婦が握り、二人三脚のかたちで運営していったのが、かつての家庭だったのであ

る。

現在では主婦という用語は、ごくありふれた日常語となっているが、この言葉は大正6年、『主婦之友』が発刊されたときに始めて世の中に登場した用語だといわれる。いわゆるサラリーマンが増加し、それにつれて家業をもたず、もっぱら家庭を守ることに専念する女性のライフスタイルが、大都市を中心として定着してくる。そうした女性たちに、実用と教養とを伝達する雑誌を作りたいと、石川武美氏が考えだした用語が「主婦」だったのである。

それ以前の主婦たちは、家政のきりもりをすると同時に、農業や家業の手伝いをするのが常であったから、専業主婦ではなかった。もちろん上級士族の流れをくむ家庭や明治の高官の家庭には、専業主婦の姿がみられるが、そうした場合は書生や住みこみの手伝いを指揮して、お邸をきりもりするもので、あくまで上流家庭に限られた現象であった。

丸ビル文化が花を開き、ブランタンなどの喫茶店で、昼休みの一刻にコーヒーを飲む。そうしたサラリーマンの登場は、いかにも当世風だが、そば屋などを除くと手軽な食堂のない時代のことゆえ、「腰弁」の名が残っているように、弁当持参の通勤は当たり前現象だった。そのうえ、ハイカラな背広や靴下が高価なものだったから、そうした衣服のつくろいも、妻の大事な仕事だった。

40代以上の読者なら、あらためて書くまでもないことだが、現在のように家庭用電気製品が出まわるまで、ご飯炊きや風呂たき、掃除……のなにひとつをとっても、手間ひまのかかる仕事だった。つまり夫が社会に出て収入を得、妻が家事に専念するという役割の分担制をとらねば、男性も満足に仕事ができない時代が、ほんの30～40年前まで存在していたのである。

もちろん、そうした性に対応した役割分化は、実質的な必然性があっただけでなく、家制度や男女別の教育制度などによって、社会的にも支えられていたからきわめて強固なも

て戦後日本の父親が権威を失った原因として、

- ①人間関係の異常接近——家族サイズが小さくなり、父親が父親としての権威を保ちにくくなった。
- ②生活空間の異常接近——住宅が小さくなり、子どもたちが素顔の父と接するようになってしまった。
- ③情報の異常接近——マスメディアの発達により、誰でもが、情報を手に入れるようになった。
- ④経済の異常接近——賃金格差がなくなり、誰でもある程度の収入を得ることが可能になった。

の4つの「異常接近」をあげている。それぞれに納得できる理由だが、こうした状況は②の住宅環境、③のマスメディアなど、どれをとっても、ここ当分続くと予想されるものばかりである。したがってこうした前提で論旨を展開するなら、父親の権威は歯止めなしに長期低落傾向をたどると予想せざるを得ない。

しかし伝統的な父親と母親との役割分化は、過去の社会でそれなりの必然性を伴って

登場したものであるとするなら、社会の条件が変わるにつれて、父親と母親との役割も変化するのが当然であろう。

考えてみると現代は、個性の喪失していく時代という印象を受ける。日本中、どこを旅行していても、その地域らしい味やおもかけが失われ、ミニ東京やミニ大阪に接する機会が多くなった。そういえば職人さんらしい言葉づかいやもの腰、板前さんらしい雰囲気をもつ人も少なくなった。子どもをつれていなければ、ミスとミセスの区別がつきにくい時代である。

好ましいことかどうかはともあれ、地域差、職業差、学歴差などが、急速に解消され画一化の色彩を強めているのが現代である。そうした風潮の中で、性差も年一年と縮小の傾向を強めていく。そうだとすると父親のみが、かつての父親と同じ姿をとどめているはずもない。やさしさを増した父親も時の流れがもたらしたものという気持ちがある。しかし前置きはこの程度にとどめ、結果の紹介に入ろう。

2. 調査結果から



🌿 父親たちの現在 🌿

1. 家族への思い

子どもから見た父親像にふれる前に、まず父親自身がどんな気持ちでいるのかを紹介しておこう。

なお、今回のサンプルとなった父親は、

| | | |
|-------|-------|-------|
| 1. 学歴 | 中学卒業 | 9.3% |
| | 高校卒業 | 35.7% |
| | 短大卒業 | 6.7% |
| | 大学卒業 | 41.6% |
| | 大学院卒業 | 4.9% |
| | その他 | 1.8% |
| 2. 職業 | 会社員 | 33.2% |
| | 管理職 | 26.1% |
| | 自営業 | 23.9% |
| | その他 | 16.8% |

のように、大学卒のサラリーマンが過半数に

迫っている。

そして父親としての子どもに対する評価は表1の通りで、子どもはほぼ予想した通りに成長したという。「学力」や「やる気」の面でやや不満をもつ割合が高いが、それでも2割前後にとどまっており、全体としてみると子どもの成長にはほぼ満足している父親が多いのがわかる。

そして表2によると、奥さんについても「とても満足」とまで言わないまでも、「かなり」あるいは「やや満足している」という。なかでも、料理のうでまえや家計のきりもりについて、満足と答えている者は、「やや満足」を含めると8割から9割に達する。

さらに父親としての気持ちを探った結果を図1(表3)にまとめてみた。「家族は自分の苦勞をわかってくれない」と思っている父

親は6%で、7割を超える父親は、そんな思いをしていない。つまり家族の者は、自分の苦勞をわかっていると答えている。そして「家族から自分はもう少し大切にされてもよい」と思っている者も6%にとどまり、59.3%と6割近い父親は、それなりに尊敬され、家の

中の居心地は悪くないと答えている。

父親というと、家庭内で孤立したややあわれな存在として語られることが多い。しかし表1-3を手がかりにすると、父親たちは結構自信をもって、父親らしくふるまっているのがわかる。

表1 子どもの成長(小学生の父親)

—ほぼ予想通り—

(%)

| | 予想以上に成長してくれた | やや予想以上 | ほぼ考えていた通り | 期待をやや裏切った | 期待を大きく裏切った |
|----------|--------------|--------|-----------|-----------|------------|
| 1. 体力の面 | 18.7 | 16.5 | 50.7 | 10.6 | 3.5 |
| 2. 学力の面 | 7.3 | 15.4 | 58.7 | 16.2 | 2.4 |
| 3. 性格の面 | 13.7 | 19.6 | 54.4 | 10.5 | 1.8 |
| 4. 友だちの数 | 11.3 | 29.2 | 53.5 | 4.6 | 1.4 |
| 5. やる気の面 | 11.2 | 20.4 | 49.1 | 16.5 | 2.8 |

表2 奥さんへの不満(小学生の父親)

—やや満足という感じ—

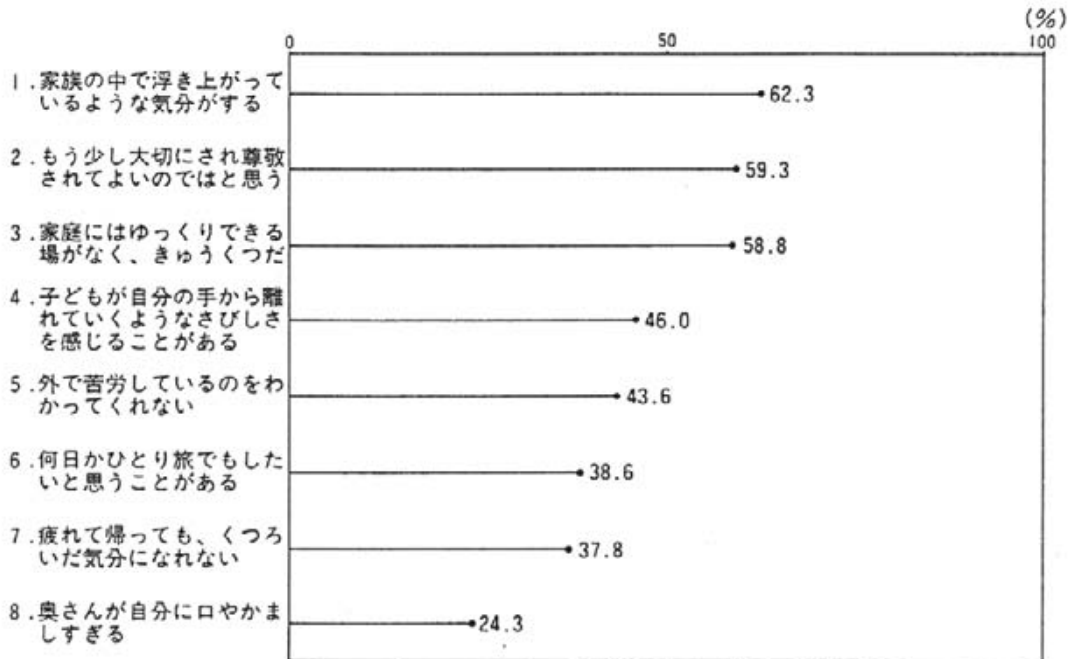
(%)

| | とても満足 | かなり満足 | やや満足 | かなり不満 | まったく不満 |
|--------------|-------|-------|------|-------|--------|
| 1. 料理のうでまえ | 20.1 | 30.4 | 44.7 | 3.8 | 1.0 |
| 2. 体力の高さ合情の | 17.8 | 28.2 | 38.0 | 11.8 | 4.2 |
| 3. 家計のきりもり | 14.2 | 29.5 | 41.0 | 13.5 | 1.8 |
| 4. 女性としての魅力 | 14.0 | 30.9 | 46.3 | 6.3 | 2.5 |
| 5. 子どものじつけ | 12.9 | 27.5 | 45.4 | 12.5 | 1.7 |
| 6. 子どもの教育 | 12.8 | 31.6 | 44.2 | 9.7 | 1.7 |
| 7. 掃除のうでまえ | 10.1 | 25.8 | 44.6 | 17.1 | 2.4 |
| 8. 服を作るうでまえ | 9.9 | 19.0 | 47.3 | 12.8 | 11.0 |
| 9. 社会の動きについて | 3.2 | 20.1 | 46.8 | 25.7 | 4.2 |
| 10. お金をかせぐ力 | 7.4 | 21.5 | 47.4 | 14.8 | 8.9 |

わ
し
は
い

図1 父親としての気持ち(小学生の父親)

— 家族の中で浮き上がってなどいない —



「まったくない」割合

表3 父親としての気持ち(小学生の父親)

— それなりに尊敬されている —

| 項目 | まったく ない | たまに ある | ときどき ある | わりと ある | しょっちゅう ある |
|------------------------------------|------------|-----------|------------|-----------|--------------|
| 1. 奥さんが自分に口やかましすぎる | 24.3 | 25.4 | 38.2 | 7.1 | 5.0 |
| 2. 疲れて帰っても、くつろいだ気分になれない | 37.8 | 26.4 | 24.6 | 8.3 | 2.9 |
| 3. 何日かひとり旅でもしたいと思うことがある | 38.6 | 28.2 | 22.8 | 7.1 | 3.3 |
| 4. 子どもが自分の手から離れていくようなさびしさを感じることもある | 46.0 | 27.0 | 19.8 | 4.0 | 3.2 |
| 5. 家庭にはゆっくりできる場がなく、きゅうくつだ | 58.8 | 22.7 | 11.6 | 4.7 | 2.2 |
| 6. 外で苦勞しているのをわかってくれない | 43.6 | 28.6 | 21.4 | 4.6 | 1.8 |
| 7. もう少し大切にされ尊敬されてよいのではと思う | 59.3 | 22.5 | 12.4 | 2.9 | 2.9 |
| 8. 家族の中で浮き上がっているような気がする | 62.3 | 19.0 | 15.1 | 2.5 | 1.1 |

2. 父親としての自己像

本サンプルは、主として小学生をもつ父親であるから、40歳前後でビジネスマンとしてはりきって活躍している世代であろう。さすがに、そうした世代を反映してか表4のように、「以前より疲れやすくなった」「前日の疲れが残っているような気がする」などの項目で「少しそう思う」者が多いものの、まだまだ元気に、社会生活を送っているのがわかる。

全体として、かなり自信にあふれ、幸せな父親たちが多いようで、図2(表5)の自己評価でも、「服装のセンス」や「男性としての魅力」といわれると自信はないが「仕事への意欲」や「子どもへの愛情」では誰にも負けないつもりだという。

いずれにせよ、マスコミなどに登場する父親の姿と異なり、仕事に意欲をもやすと共に、よき家庭人でもある父親の姿がうかんでくる。

表4 父親の疲労(小学生の父親)

—やや疲れぎみ—

(%)

| | とてもあてはまる | 少しそう思う | あまり思わない | まったく思わない |
|----------------------------|----------|--------|---------|----------|
| 1. 以前より疲労しやすくなった | 16.6 | 62.5 | 17.0 | 3.9 |
| 2. 朝起きて、前日の疲れが残っている気がする | 14.5 | 53.9 | 24.5 | 7.1 |
| 3. もう少し自分のために使える時間がほしい | 26.7 | 41.2 | 27.8 | 4.3 |
| 4. 少し過労ぎみだと思う | 16.8 | 48.1 | 31.2 | 3.9 |
| 5. もう少し睡眠時間をふやしたい | 18.4 | 39.1 | 35.1 | 7.4 |
| 6. よく肩がこる | 14.5 | 33.0 | 31.6 | 20.9 |
| 7. 小さなことでイライラしたり怒りっぽくなっている | 7.1 | 40.4 | 45.1 | 7.4 |
| 8. よく、どこかが痛くなる | 10.0 | 37.4 | 38.7 | 13.9 |

図2 父親としての自己像(小学生の父親)

—仕事に対する意欲がある—

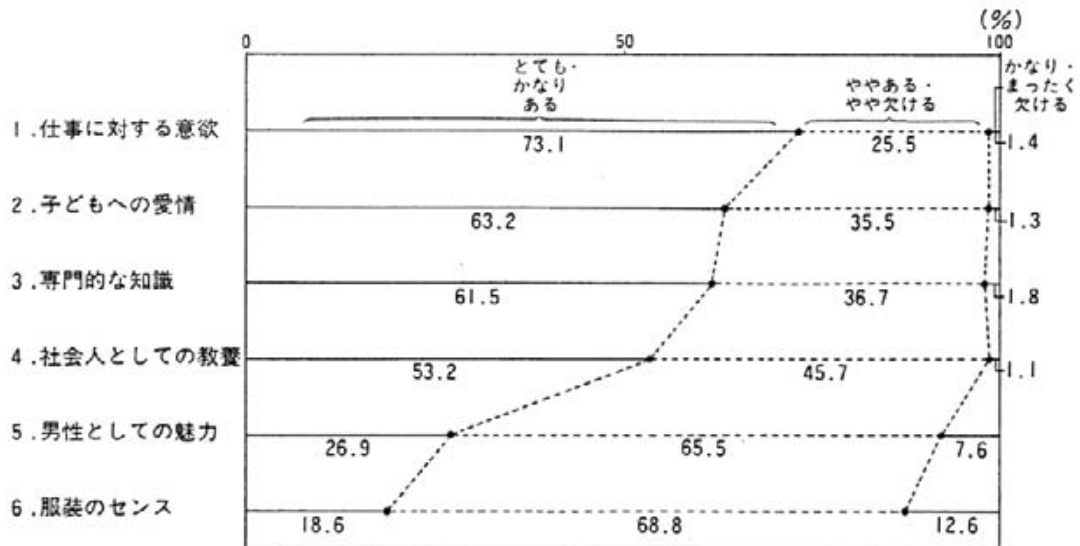


表5 父親としての自己像(小学生の父親)

—かなり自信がある—

| 項目 | 自信の程度 (%) | | | | | |
|--------------|------------|------------|-----------|------------|-------------|--------------|
| | とてもある (よい) | かなりある (よい) | ややある (よい) | やや欠ける (悪い) | かなり欠ける (悪い) | まったく欠ける (悪い) |
| 1. 仕事に対する意欲 | 30.4 | 42.7 | 23.7 | 1.8 | 0 | 1.4 |
| 2. 子どもへの愛情 | 30.2 | 33.0 | 29.2 | 6.3 | 1.0 | 0.3 |
| 3. 専門的な知識 | 24.1 | 37.4 | 30.6 | 6.1 | 0 | 1.8 |
| 4. 社会人としての教養 | 17.4 | 35.8 | 40.4 | 5.3 | 0.7 | 0.4 |
| 5. 男性としての魅力 | 6.5 | 20.4 | 54.7 | 10.8 | 3.6 | 4.0 |
| 6. 服装のセンス | 5.0 | 13.6 | 52.0 | 16.8 | 7.2 | 5.4 |

母親との対比の中で

1. 親と子のコミュニケーション

図3に、両親とどの程度話をするのかを尋ねた結果を示した。子どもたちは、「学校での出来事」や「勉強のこと」を中心に母親とかなり話をしている。

子どもが母親と話をするのは、ある程度まで当然なのであろうが、図のプロフィールが示すように、子どもたちは母親だけでなく、父親とも言葉をかわしている。

もっとも「友だちのうわさ話」をするのが、母親が27.5%、父親が13.3%、「好きな食べ

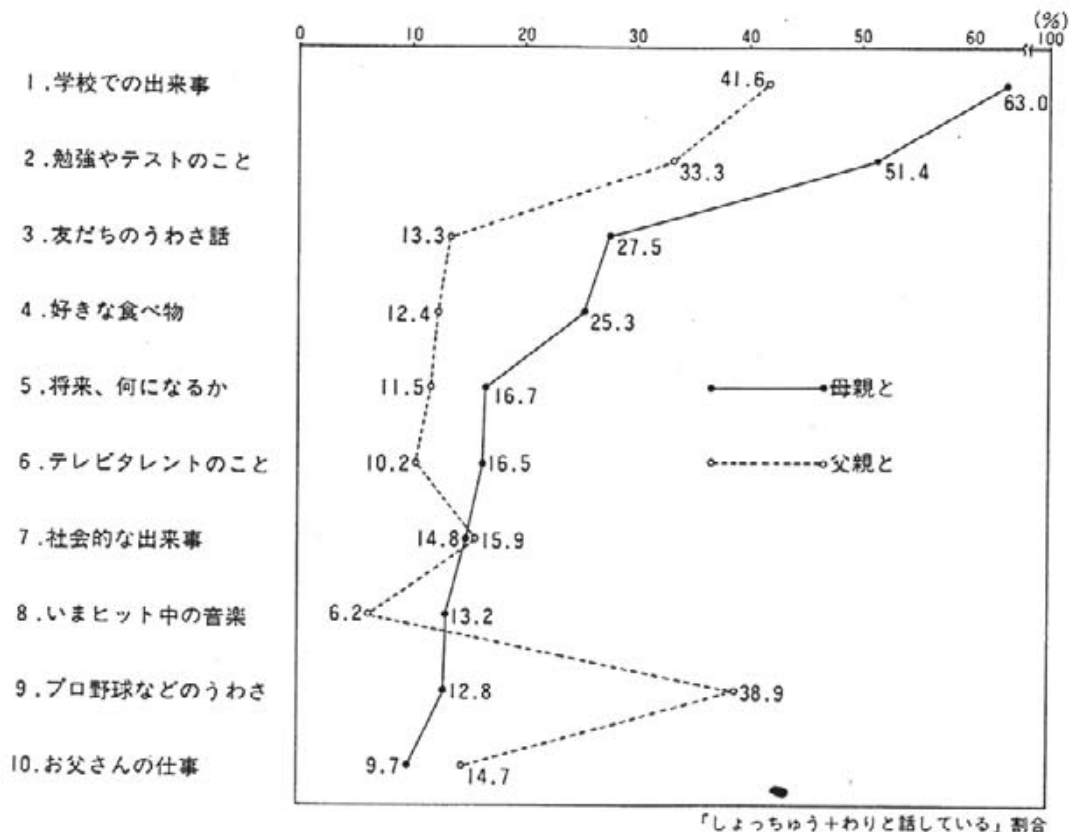
物」の話が、母親25.3%、父親12.4%と数量的におきえと、それなりの開きが認められる。したがって、父親と母親とまったく同じように、子どもと話しているという前提に立つと、父親と母親との開きが認められる。

しかし父親と母親とが異質だということにしては差が少ない。子どもと話している父親が思ったよりも多いというのが実感である。

もっとも息子と娘とで、父親と話す割合が異なる場合も考えられる。そこで子どもの性別の集計結果を集めてみると、図4の通りとなる。さすがにプロ野球の話を息子と話して

図3 父親・母親と話すか(小学生)

—父親とも話す—



いる父親が多いのが目につくが、その他の面では、息子と同様に娘とも話している父親が多い。

この調査では、すでにふれたように子どもへの調査と同時に父親へも調査を行っており、いくつかの質問項目は、意識的に父親と子どもとをだぶらせてある。

そこでコミュニケーションが父親と子どもとでどれくらい違っているのか、つまり父親は話しているつもりだが、子どもはそう思っていないというような状況があるのかどうかをたしかめると、表6のような結果が得られる。

ここでは右の欄の(A)÷(B)の割合に注目してほしい。分母に父親の反応、分子に子どもの反応をとっているから、子どもの評価のほうが父親よりも高いと、数値は100%を上まわ

る。しかし、どの項目についても70%から90%の値にとどまっており、なかには30%から40%の項目もみられる。

したがって、父親が思っているほど子どもたちは、父親と話していないと感じているのであろう。

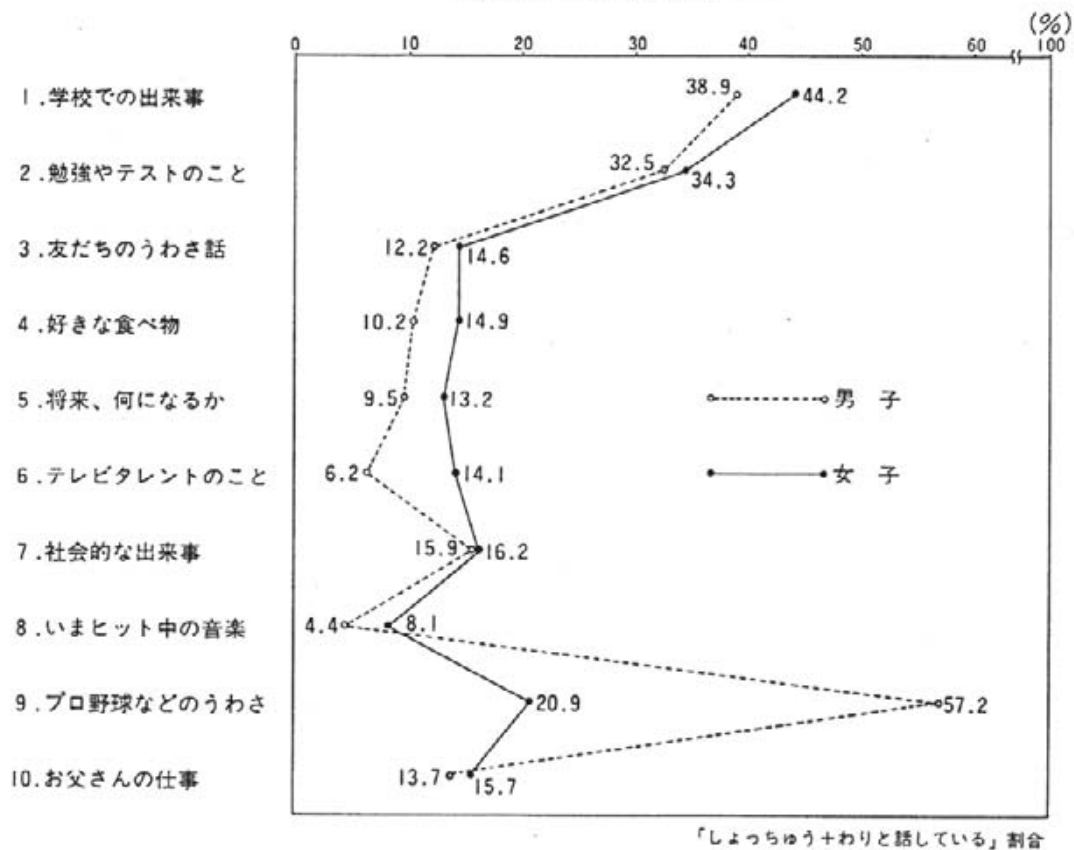
2. 父親のイメージ

このようにかつての父親と子どもとの関係をイメージにおくと、現代は父親と子どもとが仲むつまじく生活しており、父子関係の変貌を感じさせるが、それでは、そうした父親の存在を子どもはどう思い、そして父親自身は自分の父親らしさをどう評価しているのか。

図5が示すように、子どもたちは父親を「仕事熱心」で「やる気があり」、そして「心が暖かく」「やさしい」と思っており、父親自

図4 父親と話すか×性別(小学生)

—息子とはプロ野球について—



身も自分の父親らしさを、その通りだと思っている。

いずれにせよ、仕事熱心であると同時に心が暖かい父親のようで、この心の暖かさへの評価が高いあたりに新しい父親の姿をうかがうことができる。

そこで念のために、子どもたちに父親そして母親がどんなタイプなのかを尋ね、それを対のかたちで示すと図6のようになる。

一目見てわかるように、父親、母親共に、やる気があり、心が暖かいというイメージをもたれており、父親と母親との間に違いが少ないのがわかる。

そこで図6を、もう少しわかりやすくするために、母親を基準として父親像を示すと、

図7のようなプロフィールが得られる。つまり母親と比べ父親のほうがやる気があるが、そうした反面、母親のほうが心が暖かいという評価である。

したがって、冒頭で紹介したパーソンズの理論に戻るならば、父親と母親との共通性が増しているのが目につくが、そうした中で、やる気のような「引っぱり型」の特性が父親に、そして心の暖かさなどの「なだめ型」の特性が母親に多く認められる。

そうした意味ではパーソンズ理論も、こうした差異を大きく評価するかどうかで、妥当性が決まってくるが、やはり父親と母親との共通部分が多く、父親と母親との同質化が進んでいると評価するのが無難な見方であろう。

表6 父と子のコミュニケーション(小学生の父親・子ども)

—父親が思うほどには—

| コミュニケーションの項目 | 子どもの反応 | | | | 父親の反応 | | | | 割合 (A/B) |
|---------------|----------|------|------|-----------|-----------|------|------|-----------|-------------|
| | 父親と話している | | | 小計 (A) | 子どもと話している | | | 小計 (B) | |
| | しょっちゅう | わりと | たまに | | しょっちゅう | わりと | たまに | | |
| 1. 学校での出来事 | 15.3 | 26.3 | 28.9 | 70.5 | 14.0 | 26.4 | 44.2 | 84.6 | 83.3 |
| 2. 勉強やテストのこと | 12.3 | 21.0 | 29.7 | 63.0 | 7.8 | 29.9 | 44.2 | 81.9 | 76.9 |
| 3. 友だちのうわさ話 | 5.4 | 7.9 | 18.8 | 32.1 | 6.7 | 24.2 | 47.1 | 78.0 | 41.2 |
| 4. 好きな食べ物 | 3.5 | 8.9 | 16.4 | 28.8 | 1.3 | 5.4 | 24.6 | 31.3 | 92.0 |
| 5. 将来、何になるか | 4.9 | 6.6 | 16.2 | 27.7 | 3.4 | 11.9 | 27.0 | 42.3 | 65.5 |
| 6. テレビタレントのこと | 3.4 | 6.8 | 12.4 | 22.6 | 4.4 | 13.8 | 39.7 | 57.9 | 39.0 |
| 7. 社会的な出来事 | 5.6 | 10.3 | 13.9 | 29.8 | 1.4 | 15.3 | 35.3 | 52.0 | 57.3 |
| 8. いまヒット中の音楽 | 1.0 | 5.2 | 10.1 | 16.3 | 1.0 | 2.3 | 17.8 | 21.1 | 77.3 |
| 9. プロ野球などのうわさ | 20.5 | 18.4 | 15.2 | 54.1 | 19.0 | 21.8 | 22.4 | 63.2 | 85.6 |
| 10. お父さんの仕事 | 4.6 | 10.1 | 21.6 | 36.3 | 3.4 | 13.1 | 41.9 | 58.4 | 62.2 |

図5 父親のタイプ(小学生の父親・子ども)

——仕事熱心でやさしい——

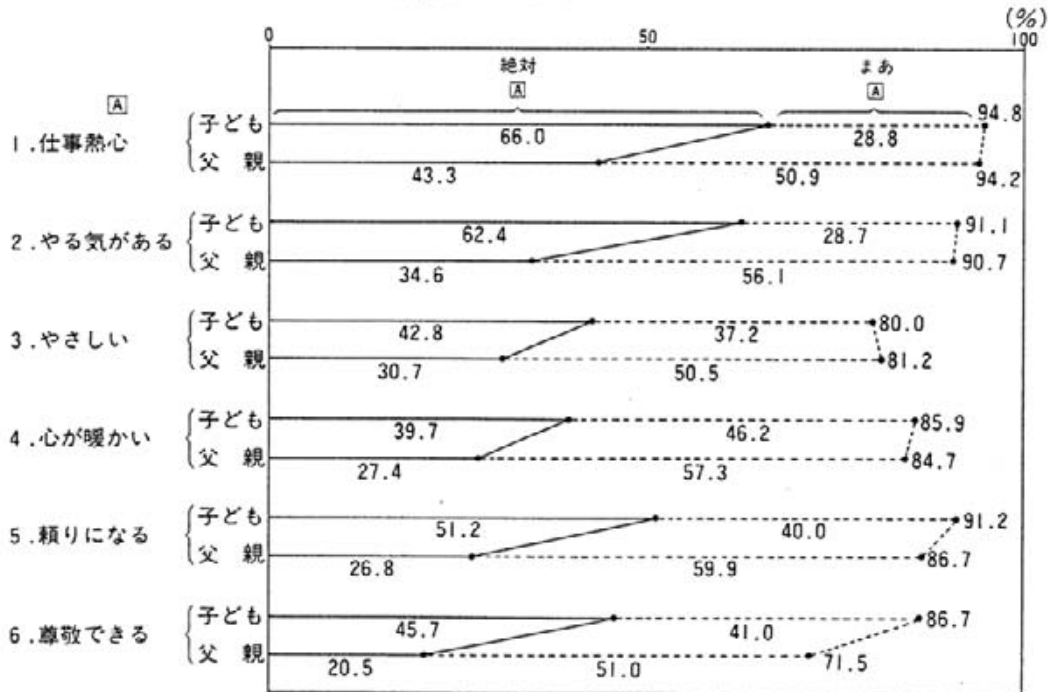


図6 父親・母親のタイプ(小学生)

——共にやる気があり、心が暖かい——

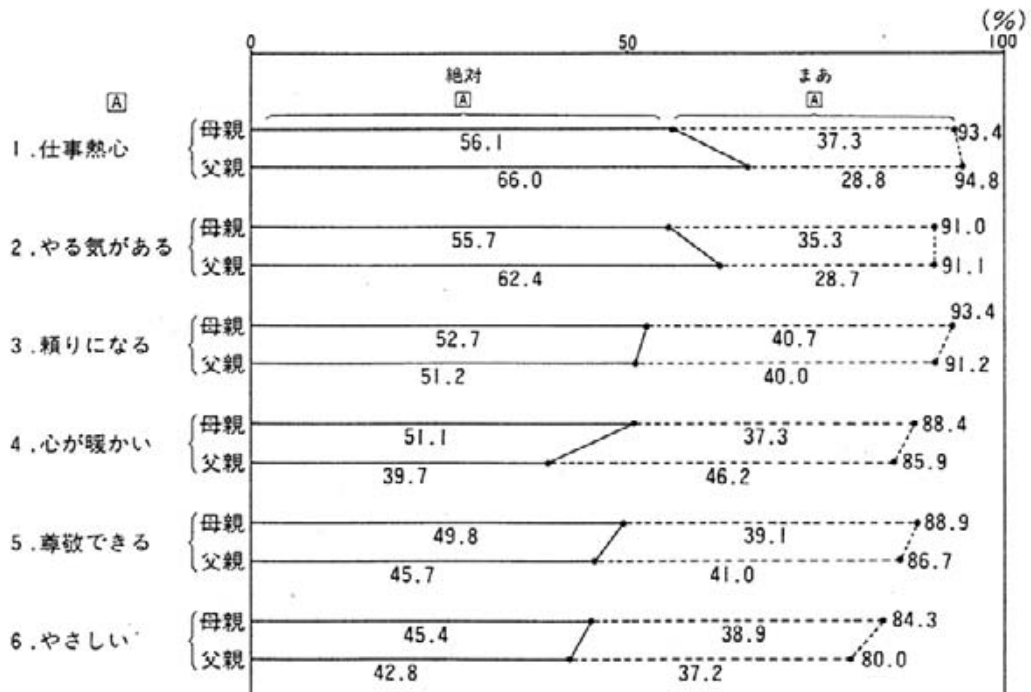
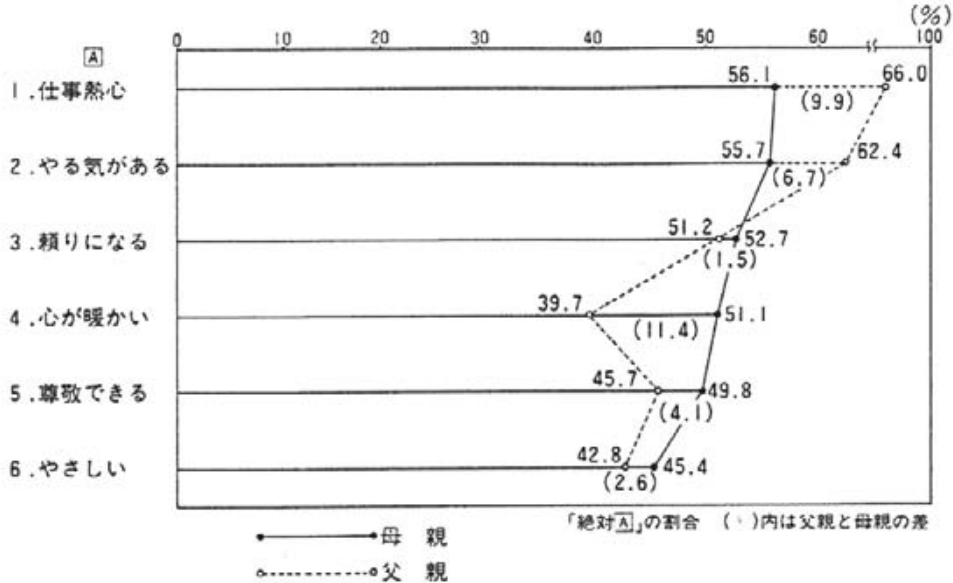


図7 父親と母親との違い(小学生)

——仕事熱心な父親、心が暖かい母親——



3. 父親を越える

このようにみえてくると、父親と母親との同質化がどの程度進んでいるかが気になりとなる。そこで表7は小学生たちが、父親や母親の力をどれくらい越えたと思っているのかを尋ねた結果を示している。

親の力を越すといっても、その意味をとらえにくいと思われるが、周知の通り、従来の発達理論にしたがうのならば、子どもたちは、まず母親の力を乗り越え、その後、父親を越えて自立していくといわれる。

しかし仮に、父親と母親との同質化が進んでいくのなら、母親が越えにくくなる。その反面父親の越えやすさが、やや増して、父親と母親とが共にある程度、越えにくい存在になっているのではないか。

そうした仮説をふまえて、表7のような結果をまとめてみた。もちろん小学生の反応なので、当然なのかもしれないが、子どもたち

は、親の力をまだ越えてはいない。そして中学生くらいになっても、親を越えられそうもないと答えている。

それと同時に、父親を越えられないと思っているだけでなく、母親も越えにくいと感じているのが目につく。

図8に父親と母親に対する気持ちの違いを示したが、さすがに体力は母親を越えたと思っている子が多いが、その他は父親と同様に母親も越えにくいという。

父親にやさしさが増し、母親がしっかりしてきた。その結果、父親と母親との差が縮小されて、父親と同じように母親にも越えにくさを感じるのであろう。

そして図9によると、子どもたちは母親にいろいろなことを相談し、母親からの助言にはかなりためになることが多いという。そして父親に相談することも多く、それなりの助言を得ているらしい。

表7 父親・母親を越えそうか(小学生)

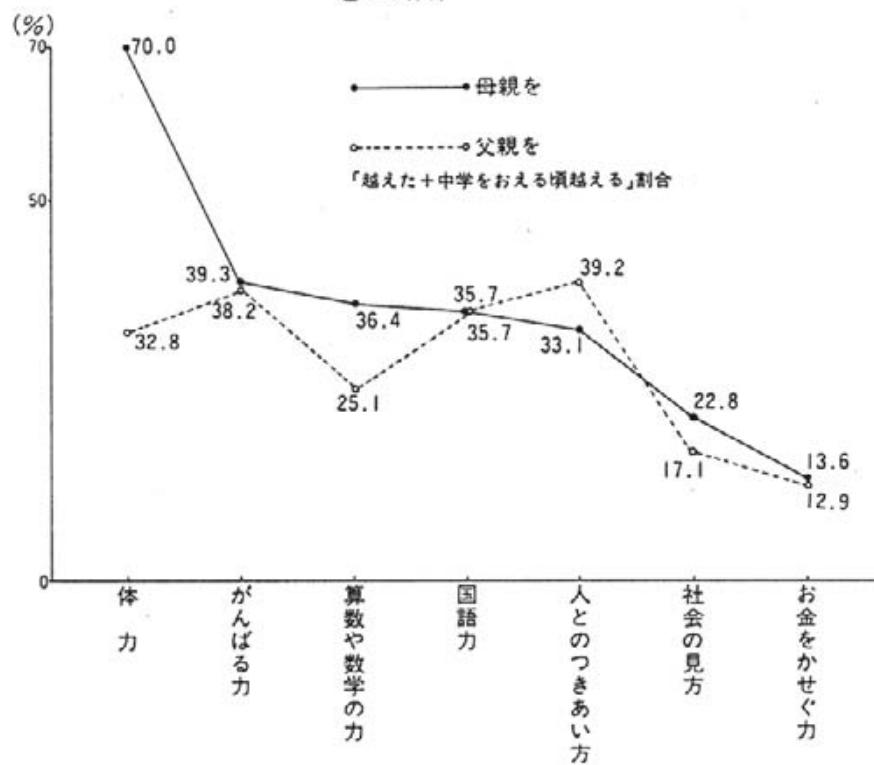
—共に越えにくい—

(%)

| | 母親を | | | 父親を | | | 割合 (B/A) |
|------------|------|----------------|-----------|------|----------------|-----------|-------------|
| | 越えた | 中学をおえる頃 越える | 小計 (A) | 越えた | 中学をおえる頃 越える | 小計 (B) | |
| 1.体力 | 33.3 | 36.7 | 70.0 | 7.2 | 25.6 | 32.8 | 46.9 |
| 2.がんばる力 | 10.8 | 28.5 | 39.3 | 8.8 | 29.4 | 38.2 | 97.2 |
| 3.算数や数学の力 | 9.4 | 27.0 | 36.4 | 7.6 | 17.5 | 25.1 | 69.0 |
| 4.国語力 | 8.4 | 27.3 | 35.7 | 12.4 | 23.3 | 35.7 | 100.0 |
| 5.人とのつきあい方 | 7.7 | 25.4 | 33.1 | 10.1 | 29.1 | 39.2 | 118.4 |
| 6.お金をかせぐ力 | 4.9 | 8.7 | 13.6 | 6.0 | 6.9 | 12.9 | 94.9 |
| 7.社会の見方 | 4.4 | 18.4 | 22.8 | 4.4 | 12.7 | 17.1 | 75.0 |

図8 父親・母親を越えたか(小学生)

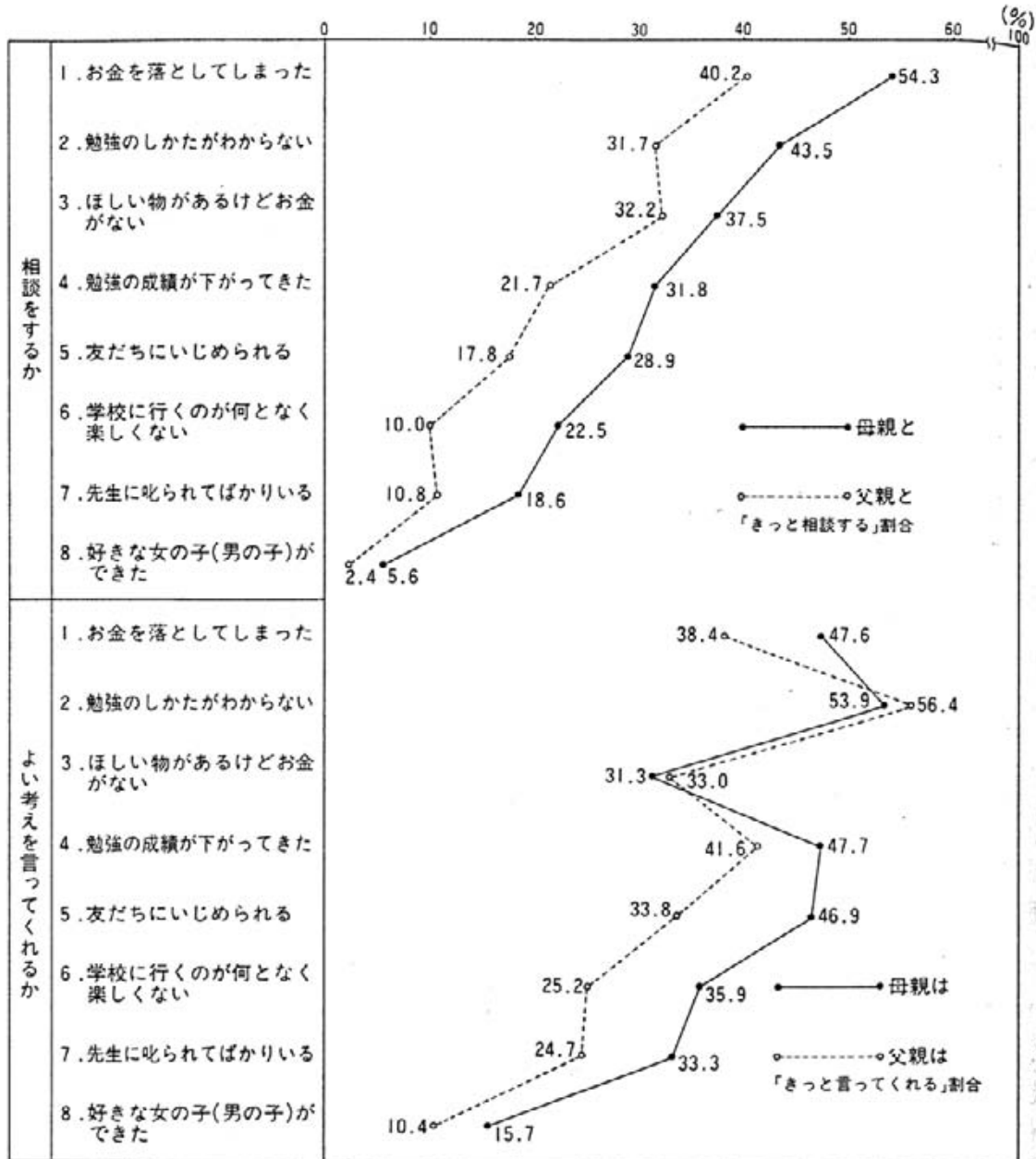
—違いは体力—



中
も
っ
じ
を
思
は
し
小
く
に
し
助

図9 相談をするか・よい考えを言ってくれるか(小学生)

—母親に相談—



父親と母親との違い

1. どちらが叱るか

このように、父親と母親との同質化が進んでいるが、そうした中で当然かもしれないが、やさしく心の暖かい母親、やる気のある父親といったイメージによる開きがみられる。

この調査サンプルの場合、母親が仕事をもっている割合は61.8%だが、逆をいうと専業主婦がほぼ4割に達する。また働く母親の中でも、パートタイムなどについている者が、有職主婦の7割を占めるので、トータルとしては、母親の8割強が、専業主婦かパートタイムとなり、いわゆるフルタイムの母親は2割を下まわる。そうしたところから、共通性をふまえつつも仕事をもつ父親、家庭のきり

もりをする母親の分化が生じてきたのであろう。

そしてそうした状況を反映して、何かあったときに、どちらのほうで叱る割合が多いかについては、表8のように、父親よりも母親のほうが口うるさいという子どもが8割を占める。

さらに図10が示す通り、「机のまわりをかたづけなさい」「朝、早く起きなさい」など子どもに声をかけるのは、さすがに母親のほうが多い。そして図中のカッコ内の数値は、母親が声をかける割合を100%として、父親との比率を求めたものだが、多くの項目で父親が子どもに注意をする割合は、母親のほぼ半数程度にとどまっている。

表8 父親と母親のどちらのほうでうるさいか(小学生)
—母親のほうでうるさい—

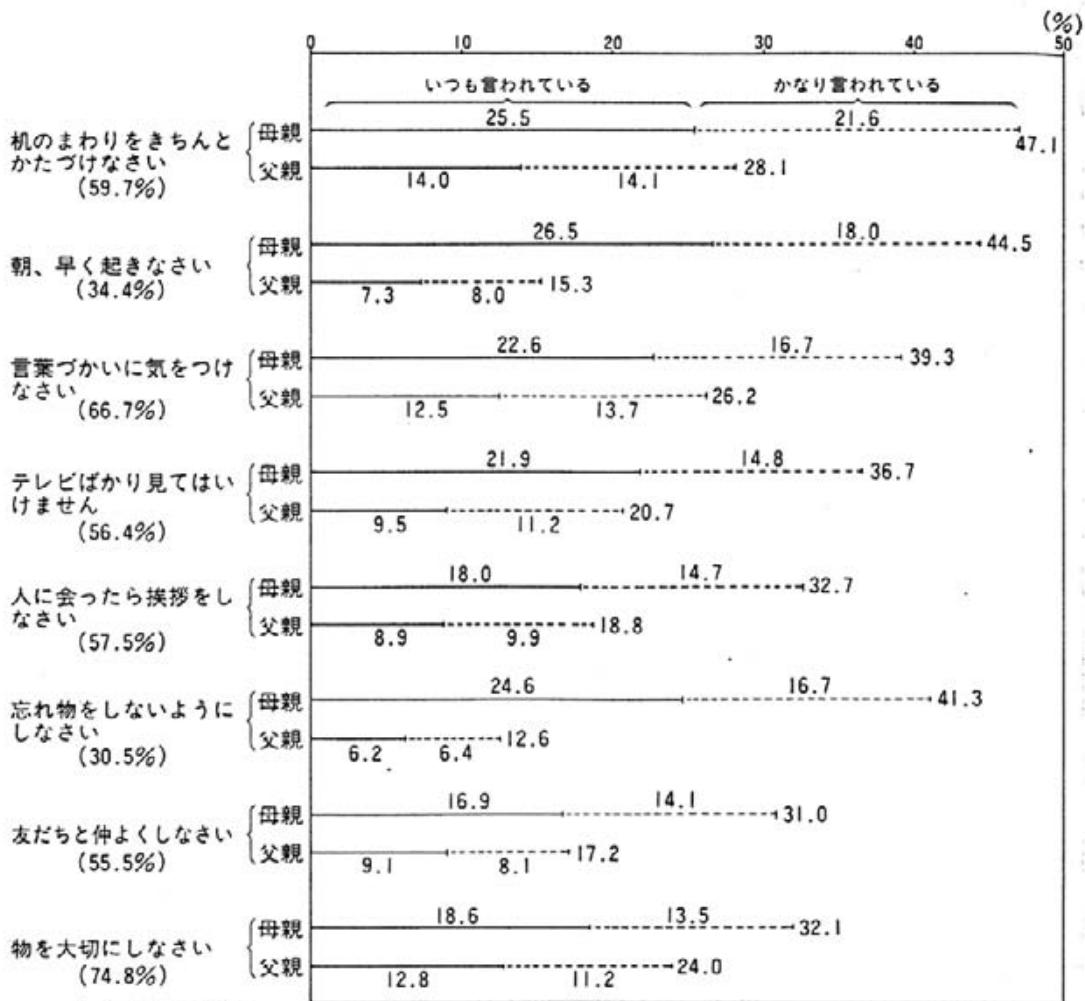
| | (%) | | | |
|------------------|--------------|----------------------|----------------------|--------------|
| | だんぜん お父さん | どちらか といえば お父さん | どちらか といえば お母さん | だんぜん お母さん |
| 1. テレビばかり見ているとき | 5.9 | 18.8 | 49.8 | 25.5 |
| | 24.7 | | 75.3 | |
| 2. 家で手伝いをしないとき | 4.7 | 13.4 | 57.9 | 24.0 |
| | 18.1 | | 81.9 | |
| 3. 机の上がちらかっているとき | 8.0 | 15.3 | 47.7 | 29.0 |
| | 23.3 | | 76.7 | |
| 4. テストで悪い点をとったとき | 5.8 | 12.2 | 58.8 | 23.2 |
| | 18.0 | | 82.0 | |
| 5. 家で勉強をしないとき | 6.9 | 10.6 | 54.2 | 28.3 |
| | 17.5 | | 82.5 | |
| 6. 朝、歯をみがかないとき | 5.1 | 11.1 | 58.1 | 25.7 |
| | 16.2 | | 83.8 | |

もっとも、父親そして母親といっても、仕事の内容により、親としての態度が異なってくる。そこで父母の仕事と注意されることとの関連を調べると表9のような数値となる。この表から、いくつかの解釈が可能だが、

①専業主婦の母親は、しつげに自信をもっているのか、あまり注意をしない、②パートタイムの母親はなにかと注意をする、③自営業の家庭では、父親はむろんだが母親も注意する割合が高い、などの傾向を読みとれよう。

図10 父親・母親から言われているか(小学生)

——注意するのは母親——



()内は父親/母親

表9 父親・母親から言われているか(小学生)×属性

—パートタイムの母親は口うるさい—

(%)

| | | 母 親 | | | | 父 親 | | |
|------------------|--------------------------|------|------|------------|-----------|-------------|------|------|
| | | 専業主婦 | 家 業 | パート タイム | フル タイム | ホワイト カラー | 自営業 | その他 |
| 母 親 か ら | 1. 朝、早く起きなさい | 23.8 | 28.0 | 31.0 | 25.8 | 27.2 | 30.8 | 24.8 |
| | 2. 忘れ物をしないように しなさい | 20.9 | 25.9 | 21.1 | 28.6 | 25.5 | 25.8 | 23.3 |
| | 3. 人に会ったら挨拶をし なさい | 18.1 | 18.4 | 19.7 | 18.2 | 16.0 | 18.5 | 23.4 |
| | 4. 友だちと仲良くしなさい | 18.9 | 17.3 | 14.3 | 15.0 | 15.3 | 21.5 | 18.0 |
| | 5. 言葉づかいに気をつけ なさい | 22.0 | 21.4 | 25.7 | 24.2 | 21.8 | 24.6 | 21.9 |
| | 6. 机のまわりをきちんと かたづけなさい | 27.1 | 26.4 | 23.9 | 20.5 | 26.6 | 27.7 | 26.2 |
| | 7. 物を大切にしなさい | 18.2 | 23.3 | 21.1 | 13.0 | 18.2 | 21.9 | 20.5 |
| | 8. テレビばかり見てはい けません | 18.4 | 20.9 | 21.1 | 28.6 | 20.2 | 29.2 | 23.4 |
| 父 親 か ら | 1. 朝、早く起きなさい | 4.9 | 7.0 | 14.5 | 6.6 | 8.3 | 3.0 | 5.4 |
| | 2. 忘れ物をしないように しなさい | 3.4 | 8.3 | 7.2 | 7.4 | 4.9 | 9.0 | 8.5 |
| | 3. 人に会ったら挨拶をし なさい | 8.1 | 9.7 | 11.5 | 9.1 | 7.2 | 13.4 | 11.5 |
| | 4. 友だちと仲良くしなさい | 6.4 | 12.3 | 10.1 | 9.0 | 8.7 | 8.8 | 13.8 |
| | 5. 言葉づかいに気をつけ なさい | 12.3 | 14.3 | 15.9 | 9.8 | 13.1 | 10.3 | 12.3 |
| | 6. 机のまわりをきちんと かたづけなさい | 14.2 | 13.5 | 16.2 | 14.0 | 14.9 | 14.7 | 15.6 |
| | 7. 物を大切にしなさい | 13.4 | 13.2 | 16.2 | 8.3 | 14.4 | 12.1 | 13.3 |
| | 8. テレビばかり見てはい けません | 7.8 | 10.3 | 7.2 | 11.5 | 8.6 | 14.7 | 9.4 |

「いつも言われている」割合

て
夕
業
す(%)
50

2. 自分をわかってきているか

しかしそうした考察はもう少しのちにゆずることにして、父親と母親との違いを追いかけていくと、「自分のことをどれくらいわかってきているか」について、図11(表10)のような結果が得られている。

子どもたちは、「担任の先生の名前」や「仲良しの友だちの名前」などは、父親よりも母

親のほうがよく知っていると思っている。

母親とは接触量が多い。だから母親のほうが自分のことを知っていると思うのであろうが、それでも図12のように父親たちも子どもの担任の先生や好きな食べ物くらいは知っている子どもから思われている。しかし、自分が何に悩んでいるかなどを、父親は知らないだろうと子どもたちは思っている。

図11 自分のことを知ってくれているか(小学生)

—悩みはわかってこない—

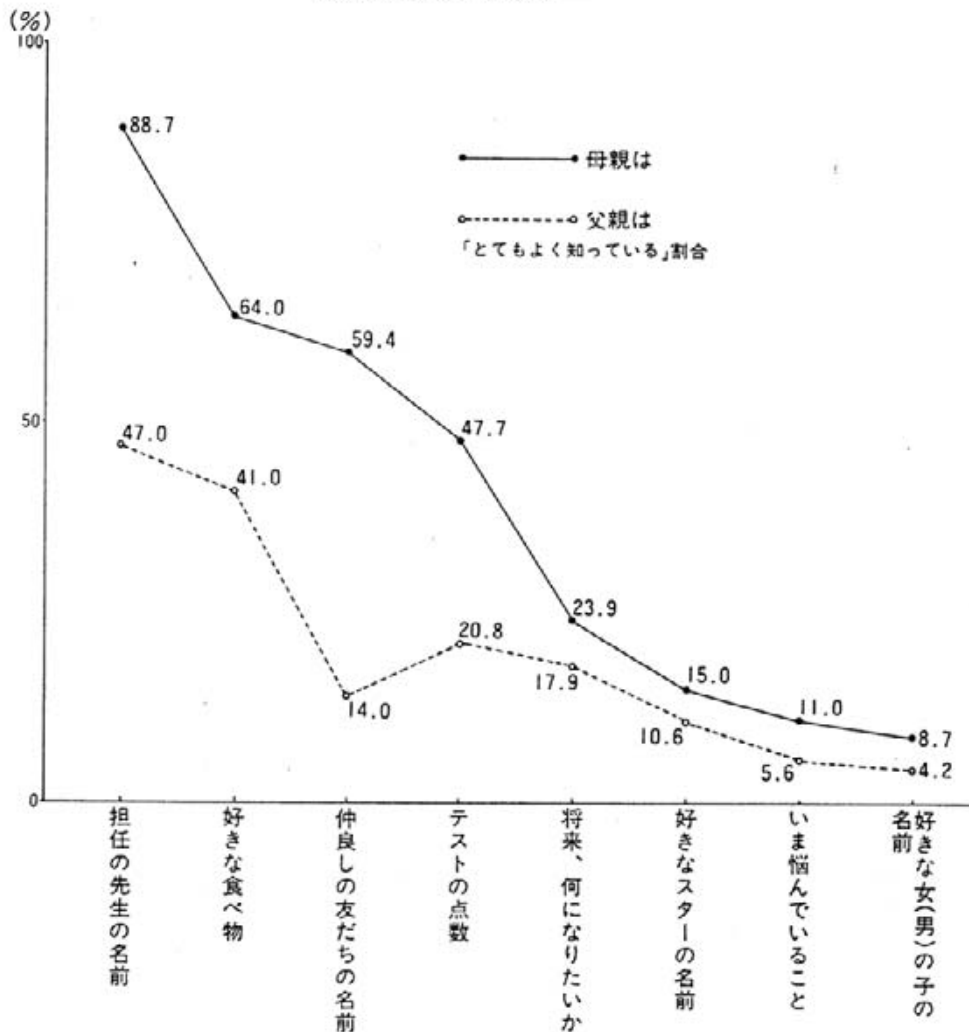


表10 自分のことを知ってくれているか(小学生)

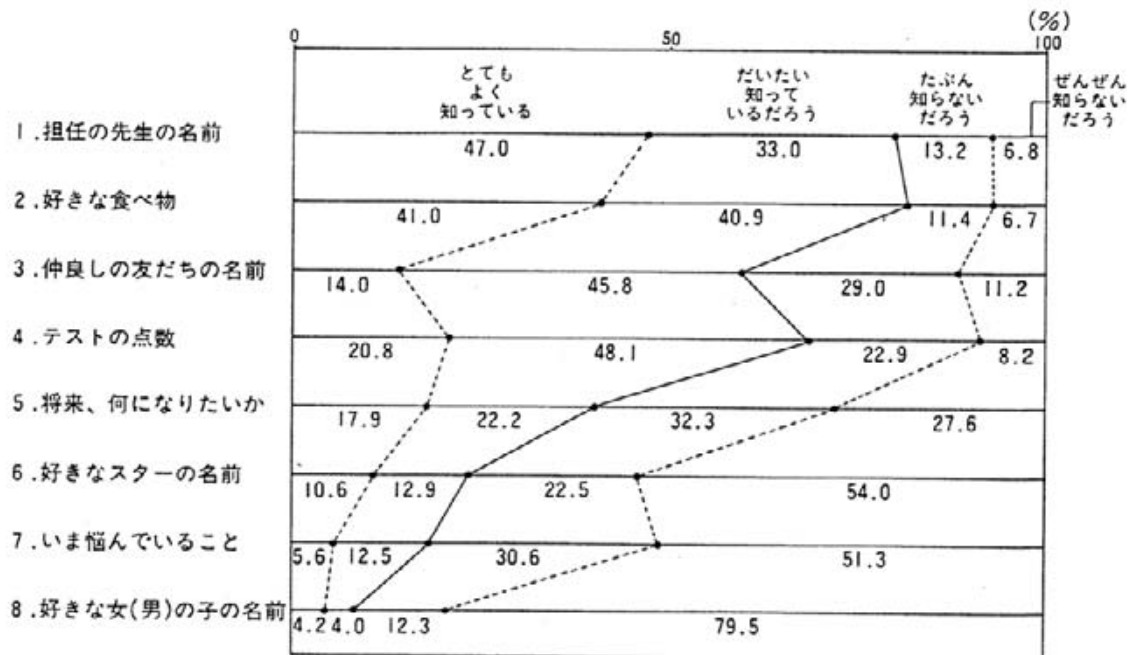
—母親はわかってきている—

| | 母親は | 父親は | 割合 (父親/母親) |
|-----------------|------|------|---------------|
| 1. 担任の先生の名前 | 88.7 | 47.0 | 53.0 |
| 2. 好きな食べ物 | 64.0 | 41.0 | 64.1 |
| 3. 仲良しの友だちの名前 | 59.4 | 14.0 | 23.6 |
| 4. テストの点数 | 47.7 | 20.8 | 43.6 |
| 5. 将来、何になりたいか | 23.9 | 17.9 | 74.9 |
| 6. 好きなスターの名前 | 15.0 | 10.6 | 70.7 |
| 7. いま悩んでいること | 11.0 | 5.6 | 50.9 |
| 8. 好きな女(男)の子の名前 | 8.7 | 4.2 | 48.3 |

「とてもよく知っている」割合

図12 父親は知っているか(小学生)

—担任の先生の名前くらい—



自信のある父親

1. 男性としての幸せ

これまでふれてきたように、父親と母親との同質化が進んでいるが、そうした中で、母親と比べ、父親は子どもとの接触量の面で開きがあり、それが父親と母親との違いを生みだしていた。

そうした意味で、父親らしさとは何かを掘り下げて考えてみたい。少なくとも父親論を展開するためにも、子どもとの接触量を増したほうがよい父親かどうかは、たしかめておく必要がある。

表11は父親たちに、男性として幸せかどうかを尋ね、それを属性別に分析した結果を示した。表中のプロフィールから明らかなように、男性として幸せだと思っている人は、①高学歴の、②専門職で、③仕事に満足し、④専業主婦を妻にしている男性に多い。

つまり職業人として順調な歩みをしている男性が自信を持っているのがよくわかるが、それでは父親としての満足感はどうか。表12に、父親の自己像と属性との関係を分析した結果を示した。

2. 仕事への満足感

この場合も高学歴で仕事に満足している男性が、父親としての自分に自信を持っているのがわかる。男性にとって、仕事は職業人としてではなく、家庭人としての自信を支えるものなのであろうか。

そして図13の通り、仕事に満足している父親(A)は、仕事に満足していない父親(B)と比べ、すべての項目について自信のある自己像を抱いている。

仕事に満足している父親は、「やる気がある」と思えるだけでなく「心が暖かく」「やさしい」と、自分を評価している。そしてそうした父親は、自分に自信を持っているから、子どもが自分を当分の間、越えそうもないと思っている。(表13)

こうみえてくると、父親を支えているものは仕事への満足感ということになる。仕事に自信をもてることがすべての面での自信に通じるのであろう。なお仕事への満足感を支える属性分析を表14に示したが、専門職についている者の満足感が高いのが注目をひく。

表11 男性としての幸せ×属性(小学生の父親)

—高学歴の専門職の父親は幸せ—

(%)

| | | とても 幸せなほう | かなり 幸せなほう | まあ 幸せなほう | 少し 苦勞している | とても 苦勞が多い |
|-------------|----------|--------------|--------------|-------------|--------------|--------------|
| 全 体 | | 10.6 | 28.6 | 47.7 | 9.9 | 3.2 |
| 学 歴 | 中 学 | 6.1 | 14.3 | 57.2 | 16.3 | 6.1 |
| | 高 校 | 7.1 | 22.4 | 48.1 | 16.3 | 6.1 |
| | 大 学 | 16.3 | 37.9 | 39.2 | 6.2 | 0.4 |
| 職 業 | 自 営 業 | 14.3 | 27.0 | 41.3 | 11.4 | 6.0 |
| | ホワイトカラー | 10.4 | 25.1 | 47.6 | 14.2 | 2.7 |
| | 管 理 職 | 10.4 | 37.5 | 45.2 | 6.9 | 0 |
| | 専 門 職 | 12.9 | 51.6 | 25.8 | 9.7 | 0 |
| 帰 宅 時 間 | 決まっている | 9.0 | 26.3 | 51.5 | 11.4 | 1.8 |
| | まあ決まっている | 15.0 | 31.0 | 37.0 | 12.0 | 5.0 |
| | 決まっていない | 11.5 | 33.3 | 42.0 | 11.5 | 1.7 |
| 仕事への 満足感 | 満 足 | 18.8 | 44.0 | 32.2 | 3.0 | 2.0 |
| | やや満足 | 6.2 | 26.5 | 56.2 | 10.5 | 0.6 |
| | 不 満 | 7.0 | 20.0 | 52.1 | 20.0 | 0.9 |
| 子ども の成績 | 上 位 | 11.6 | 39.1 | 39.9 | 7.2 | 2.2 |
| | 中の上位 | 14.4 | 28.8 | 47.6 | 7.2 | 2.0 |
| | 中 位 | 9.4 | 28.8 | 44.2 | 14.7 | 2.9 |
| 妻の 仕事 | もっていない | 13.8 | 36.7 | 39.5 | 8.6 | 1.4 |
| | もっている | 10.9 | 25.1 | 47.4 | 13.0 | 3.6 |

表12 父親としての自己像×属性(小学生の父親)

—仕事への満足感が父親を支える—

(%)

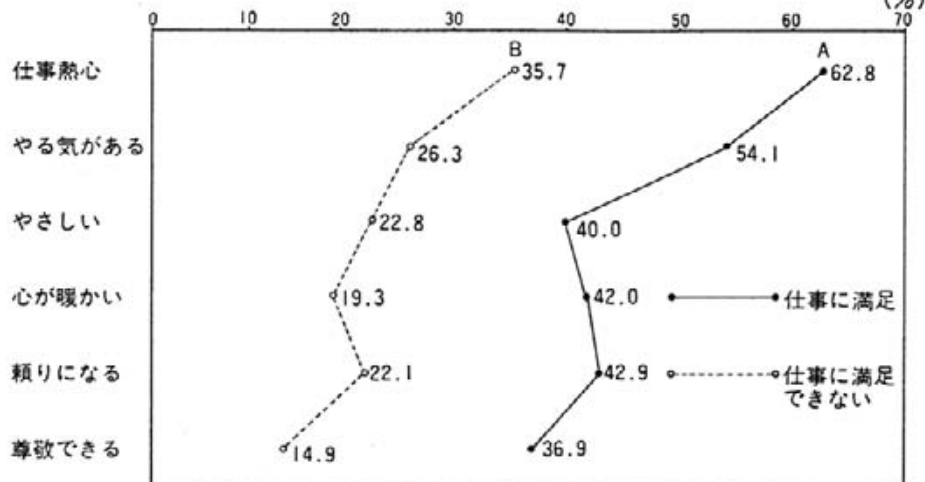
| S.C. | 学 歴 | | | 職 業 | | | 仕事への満足感 | | | 帰 宅 時 間 | | | |
|-------------|------|------|------|------|-----------------------------|------|---------|------|------|---------|--------|----------|---------|
| | 中学 | 高校 | 大学 | 自営業 | ホ ワ イト カ ラ ー | 管理職 | 専門職 | 満足 | やや満足 | 不満 | 決まっている | まあ決まっている | 決まっていない |
| 1.仕事に対する意欲 | 26.9 | 33.7 | 35.1 | 43.1 | 48.3 | 28.4 | 34.5 | 48.5 | 26.9 | 23.4 | 36.1 | 29.4 | 31.0 |
| 2.子どもへの愛情 | 28.5 | 34.0 | 30.4 | 44.3 | 27.6 | 28.5 | 25.9 | 39.6 | 27.7 | 30.2 | 33.3 | 29.4 | 27.7 |
| 3.専門的な知識 | 11.2 | 19.9 | 30.7 | 31.3 | 48.3 | 18.4 | 31.7 | 36.8 | 21.2 | 16.2 | 24.1 | 24.5 | 22.5 |
| 4.社会人としての教養 | 2.2 | 16.1 | 27.9 | 16.9 | 31.0 | 19.5 | 24.8 | 25.9 | 20.3 | 17.0 | 19.8 | 22.8 | 16.9 |
| 5.男性としての魅力 | 2.3 | 8.8 | 7.1 | 9.9 | 6.9 | 8.1 | 6.5 | 10.7 | 6.4 | 5.5 | 6.7 | 3.9 | 7.2 |
| 6.服装のセンス | 4.4 | 6.7 | 5.3 | 9.0 | 3.4 | 4.0 | 5.8 | 10.8 | 1.9 | 2.7 | 6.1 | 5.9 | 2.9 |

「とてもある(よい)」割合

図13 父親のタイプ×仕事への満足感(小学生の父親)

—満足している人は父親としても自信がある—

(%)



「絶対」の割合

表13 子どもが父親を越えられるか×仕事への満足感(小学生の父親)

—満足している父親は自信がある—

(%)

| | 仕事に | | | 割合 (C/A) | |
|-----------------|--------------|-------------|--------|-------------|------|
| | 満足(A) | やや満足 (B) | 不満(C) | | |
| 子どもは、 越えられるか | 1. お金をかせぐ力 | (35.1) | 25.5 | 15.9 | 45.3 |
| | 2. 社会についての見方 | (20.8) | 16.7 | 13.3 | 63.9 |
| | 3. 社会常識 | (16.2) | 13.2 | 13.4 | 82.7 |
| | 4. 国語力 | (18.8) | 14.4 | 8.8 | 46.8 |
| | 5. 体力 | 15.6 | (17.1) | 12.1 | 77.6 |
| | 6. 数学の力 | (11.3) | 11.0 | 9.9 | 87.6 |
| | 7. 人とのつきあい方 | (15.7) | 10.1 | 7.1 | 45.2 |
| | 8. がんばる力 | (12.7) | 6.5 | 9.8 | 77.2 |

「ずっと越えそうにない」割合

表14 仕事への満足感×属性(小学生の父親)

—属性を越えて—

(%)

| | | とても満足 | かなり満足 | やや満足 | どちらともいえない | やや不満 | かなり不満 | とても不満 |
|-------|---------|--------|-------|------|-----------|------|-------|-------|
| | | 学歴 | 中学 | 14.0 | 28.0 | 26.0 | 24.0 | 8.0 |
| 高校 | 9.0 | | 19.6 | 28.8 | 25.1 | 7.0 | 7.0 | 3.5 |
| 大学 | 10.9 | | 27.6 | 30.1 | 20.1 | 8.3 | 1.7 | 1.3 |
| (大学院) | (23.1) | | 38.5 | 26.9 | 11.5 | 0 | 0 | 0 |
| 職業 | 自営業 | 16.0 | 23.7 | 24.5 | 22.1 | 6.9 | 5.3 | 1.5 |
| | ホワイトカラー | 6.1 | 18.2 | 29.9 | 27.6 | 9.4 | 5.5 | 3.3 |
| | 管理職 | 12.6 | 35.6 | 34.3 | 13.3 | 4.2 | 0 | 0 |
| | 専門職 | (21.9) | 49.9 | 15.6 | 6.3 | 6.3 | 0 | 0 |

子どもの成長につれて

1. 中学生の見方

これまで小学生にとっての父親像を探ってきた。心やさしい父親が増加してきたことはたしかだが、母親と比べれば、父親の子どもの多い母親との違いを形成していた。

しかし考えてみると、父親が、父親としての力量を問われるのは、子どもが小学生の頃ではなく、中学生になってからではないのか。

そこで参考までに、中学生をもつ父親にも、小学生の父親に実施したものと同一調査票を使って、父子関係の分析を試みることにした。

それと同時に、中学生にも小学生と同じ調査を実施することにした。

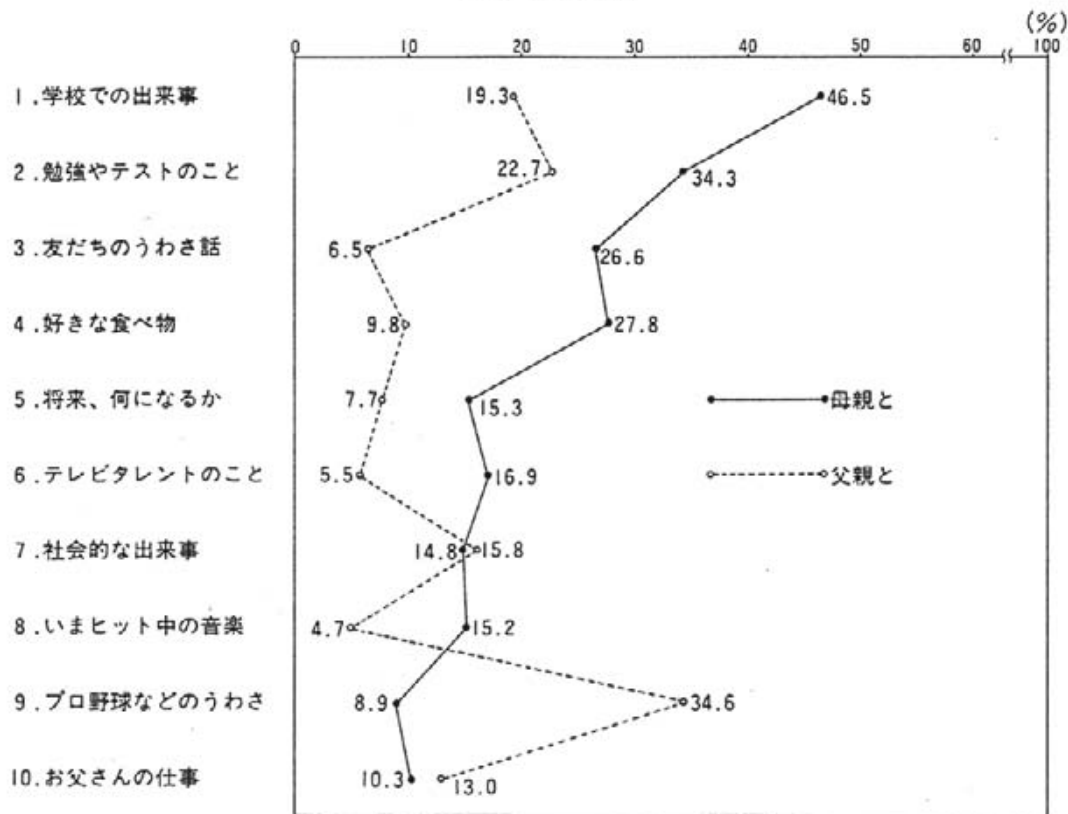
図14は中学生たちに両親とどれくらい話すのかを尋ねたもので、図3の小学生のデータを延長したかたちをとっている。

| | 小学生 | 中学生 |
|----------|-----------|-------------------|
| 学校での出来事 | 父親と 19.3% | 父親と 41.6% > 19.3% |
| | 母親と 63.0% | 母親と 46.5% |
| 友だちのうわさ話 | 父親と 6.5% | 父親と 13.3% > 6.5% |
| | 母親と 27.5% | 母親と 26.6% |
| 将来、何になるか | 父親と 7.7% | 父親と 11.5% > 7.7% |
| | 母親と 16.7% | 母親と 15.3% |

「しょっちゅう+わりと話している」割合

図14 父親・母親と話すか(中学生)

—父親とはプロ野球—



「しょっちゅう+わりと話している」割合

このように小学生から中学生になるにつれて、父親と話をする割合が減少している。子どもなりに、自分の世界を作り、親との距離が生じ始めた。それが父親と話をしなくなった背景であろう。

なお表15に「子どもとどれくらい話しているのか」の評価を、父親に尋ねた結果を示した。子どもたちは、父親と話をしなくなったと答えているが、父親たちは子どもが中学生になってからのほうが「将来、何になるか」や「社会的な出来事」などについて、子どもと話すようになったという。

2. 父親は変わったか

もちろん、子どもが中学生になる頃から父親は、社会の中堅としてますます多忙になり始める。事実、図15のように小学生の父親と比べ、中学生の父親は子どもと夕食を食べる回数が減少してきている。

それだけ、仕事に追われているのであろうが、父親としての自己像は表16の通りに子どもが小学生の頃と比べ、専門的な知識がやや増え、仕事に対する意欲が心もち増したと思っ

表15 子どもとのふれあい

— 勉強と野球 —

(%)

| | 小学生の父親 | | | 中学生の父親 | | | 割合 (B/A) |
|---------------|-----------|------|-----------|-----------|------|-----------|-------------|
| | 子どもと話している | | 小計 (A) | 子どもと話している | | 小計 (B) | |
| | しょっちゅう | わりと | | しょっちゅう | わりと | | |
| 1. 学校での出来事 | 14.0 | 26.4 | 40.4 | 6.0 | 18.7 | 24.7 | 61.1 |
| 2. 勉強やテストのこと | 7.8 | 29.9 | 37.7 | 5.4 | 27.5 | 32.9 | 87.3 |
| 3. 友だちのうわさ話 | 6.7 | 24.2 | 30.9 | 2.4 | 12.6 | 15.0 | 48.5 |
| 4. 好きな食べ物 | 1.3 | 5.4 | 6.7 | 0.6 | 5.5 | 6.1 | 91.0 |
| 5. 将来、何になるか | 3.4 | 11.9 | 15.3 | 2.4 | 17.4 | 19.8 | 129.4 |
| 6. テレビタレントのこと | 4.4 | 13.8 | 18.2 | 1.8 | 15.1 | 16.9 | 92.9 |
| 7. 社会的な出来事 | 1.4 | 15.3 | 16.7 | 4.2 | 17.4 | 21.6 | 129.3 |
| 8. いまヒット中の音楽 | 1.0 | 2.3 | 3.3 | 3.6 | 4.2 | 7.8 | 236.4 |
| 9. プロ野球などのうわさ | 19.0 | 21.8 | 40.8 | 24.0 | 20.4 | 44.4 | 108.8 |
| 10. お父さんの仕事 | 3.4 | 13.1 | 16.5 | 2.4 | 12.8 | 15.2 | 92.1 |

さらに表17に、仕事と家庭との葛藤場面を提示して、そうしたとき仕事を優先させるか、それとも家庭を大事にするかを尋ねた結果を示した。さすがに現代の仕事人間の男性たちを反映して、仕事を優先させる父親が多いが、

小学生の父親から中学生の父親へと移るにつれて、仕事優位の傾向はさらに強まっている。

職場の中核を占めるようになり、仕事に対する責任も増加してきた。そうした父親の変化が表17のような結果となったのであろう。

図15 父親の変化

—仕事が忙しくなる—

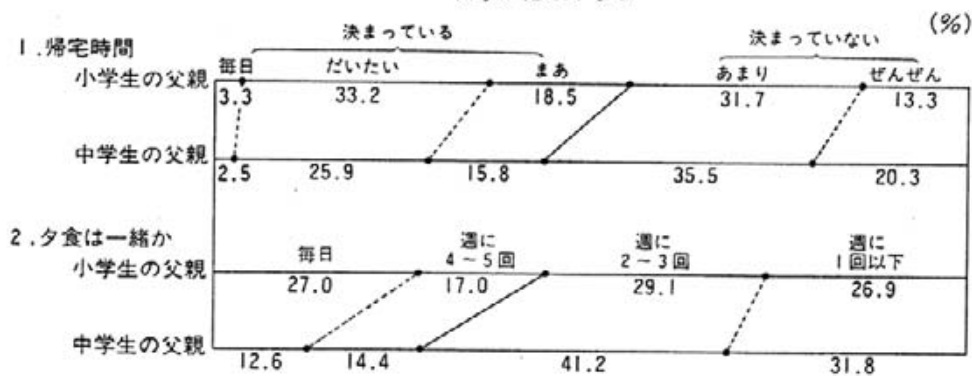


表16 父親としての自己像の変化

—仕事面での重み—

(%)

| 項目 | 小学生の父親 | | | 中学生の父親 | | | 割合 (B/A) |
|--------------|------------|------------|--------|------------|------------|--------|----------|
| | とてもある (よい) | かなりある (よい) | 小計 (A) | とてもある (よい) | かなりある (よい) | 小計 (B) | |
| 1. 仕事に対する意欲 | 30.4 | 42.7 | 73.1 | 34.6 | 39.7 | 74.3 | 101.6 |
| 2. 子どもへの愛情 | 30.2 | 33.0 | 63.2 | 26.8 | 31.2 | 58.0 | 91.8 |
| 3. 専門的な知識 | 24.1 | 37.4 | 61.5 | 24.8 | 38.9 | 63.7 | 103.6 |
| 4. 社会人としての教養 | 17.4 | 35.8 | 53.2 | 20.5 | 34.6 | 55.1 | 103.6 |
| 5. 男性としての魅力 | 6.5 | 20.4 | 26.9 | 7.2 | 18.3 | 25.5 | 94.8 |
| 6. 服装のセンス | 5.0 | 13.6 | 18.6 | 3.9 | 8.4 | 12.3 | 66.1 |

表17 仕事か家庭か
—仕事への傾斜—

(%)

| | | 仕事を優先させる | | | 小計 | 家庭を優先させる | | | 小計 |
|--|--------|----------|------|------|------|----------|------|------|------|
| | | 絶対 | たぶん | なんとか | | なんとか | たぶん | 絶対 | |
| 1. 夏休みにお子さんと3泊で海に行く約束をしたのに、出張しなければならなくなった | 小学生の父親 | 21.7 | 35.8 | 19.0 | 76.5 | 12.8 | 6.6 | 4.1 | 23.5 |
| | 中学生の父親 | 30.6 | 32.6 | 18.4 | 81.6 | 8.9 | 6.3 | 3.2 | 18.4 |
| 2. 奥さんと映画を見に行く約束をしたのに、残業してほしいと上司に言われた | 小学生の父親 | 21.6 | 35.6 | 19.5 | 76.7 | 11.1 | 6.3 | 5.9 | 23.3 |
| | 中学生の父親 | 19.0 | 37.3 | 20.9 | 77.2 | 9.5 | 8.9 | 4.4 | 22.8 |
| 3. 結婚記念日にディナーの予約をしたが、得意先から仕事上の説明に来てほしいと言われた | 小学生の父親 | 21.2 | 35.3 | 25.7 | 82.2 | 8.7 | 5.6 | 3.5 | 17.8 |
| | 中学生の父親 | 24.1 | 36.1 | 23.4 | 83.6 | 7.6 | 6.3 | 2.5 | 16.4 |
| 4. お子さんの全快祝いをしようとした日に、得意先の人と飲みに行かなければならなくなった | 小学生の父親 | 11.1 | 32.8 | 18.0 | 61.9 | 16.6 | 12.5 | 9.0 | 38.1 |
| | 中学生の父親 | 13.7 | 40.5 | 18.3 | 72.5 | 14.4 | 8.5 | 4.6 | 27.5 |
| 5. 奥さんのお母さんの手術に立会うつもりの日、重役から相談があるから今夜つきあうように言われた | 小学生の父親 | 8.4 | 18.5 | 13.9 | 40.8 | 24.3 | 19.2 | 15.7 | 59.2 |
| | 中学生の父親 | 12.1 | 22.9 | 20.4 | 55.4 | 30.0 | 8.9 | 5.7 | 44.6 |

3. 評価の移り変わり

そこで小学生から中学生になるにつれて父母への評価がどう変化するかをあらためてまとめてみると、図16のようになる。さらに図16のかたちをかえて、図17に数値の変化をベクトルのスタイルで示してみた。

父母ともに、小学生から中学生へ移るにつれて、親の評価が低下している。子どもたちも成長して、親を客観的にみようとする。あるいは、親を批判的にみるようになった証なのかもしれない。

さらに表18に、親が自分をどう思っているのかの変化を示した。小学生から中学生にな

るにつれて親たちは、自分に満足していないだろうと思う割合が増加している。

つまり子どもたちは、親に批判的になると同時に、親も自分に満足していないだろうと思う。それだけ中学生になるにつれて親子関係が、小学生の頃のような密着型の関係からクールになってきているのであろう。

なお最後に、父親や母親を越えることができるかの結果を図18(表19)に示した。小学生から中学生になるにつれ、親を越えたと思える子が多くなると思われるが、予想外なことに多くの項目(図18の○印)では、中学生のほうが親を越えにくいと思始めている。特に父親の「がんばる力」や「国語力」などは

中学生のほうが、小学生よりも、一目置き始めている。

父親を批判してはいるが、残念ながら父親のもつよさはわかる。つまり中学生たちは、父親を批判しつつも、父親に愛着心や尊敬する気持ちを抱くというジレンマにおちいつている。それだけ、現代の父親はよき父親なの

だと思うが、子どもからすると、いつまでたっても父親を越えることができずに、父親に依存した状況が続く。よき父親の増加が子どもたちに安定をもたらしたものの、皮肉なことに、子どもの自立の遅れを招いている。ここに現代の父子関係の問題が潜んでいよう。

図16 父親・母親のタイプ(小・中学生)

— 尊敬できる父親 —

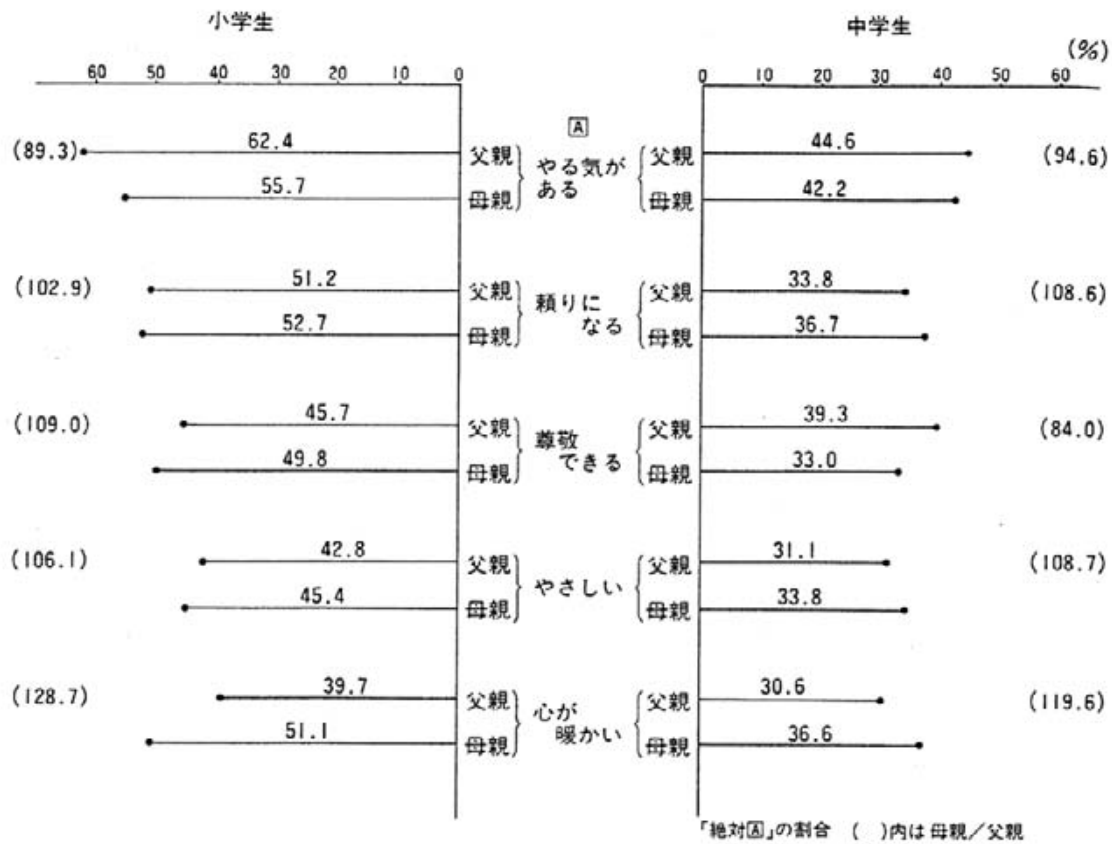


図17 父親・母親のタイプの変化(小・中学生)

—全体としてクールに—

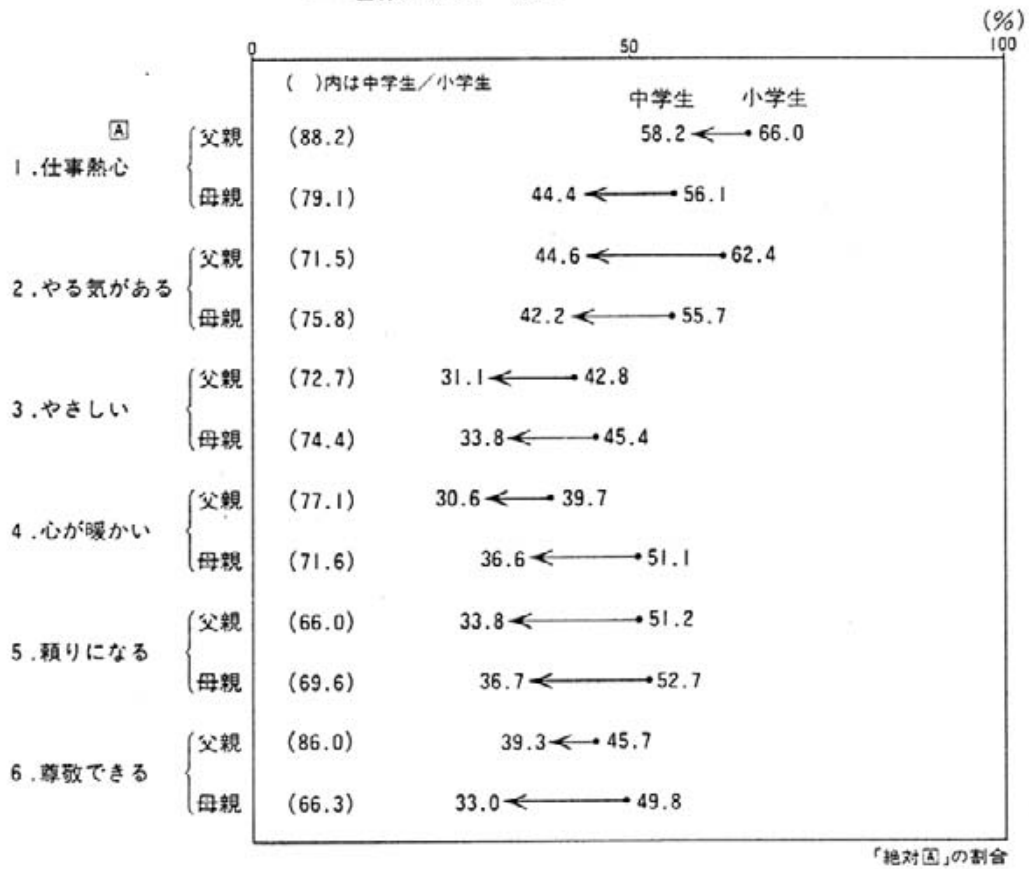


表18 父親・母親への理解(小・中学生)

—満足していないだろう—

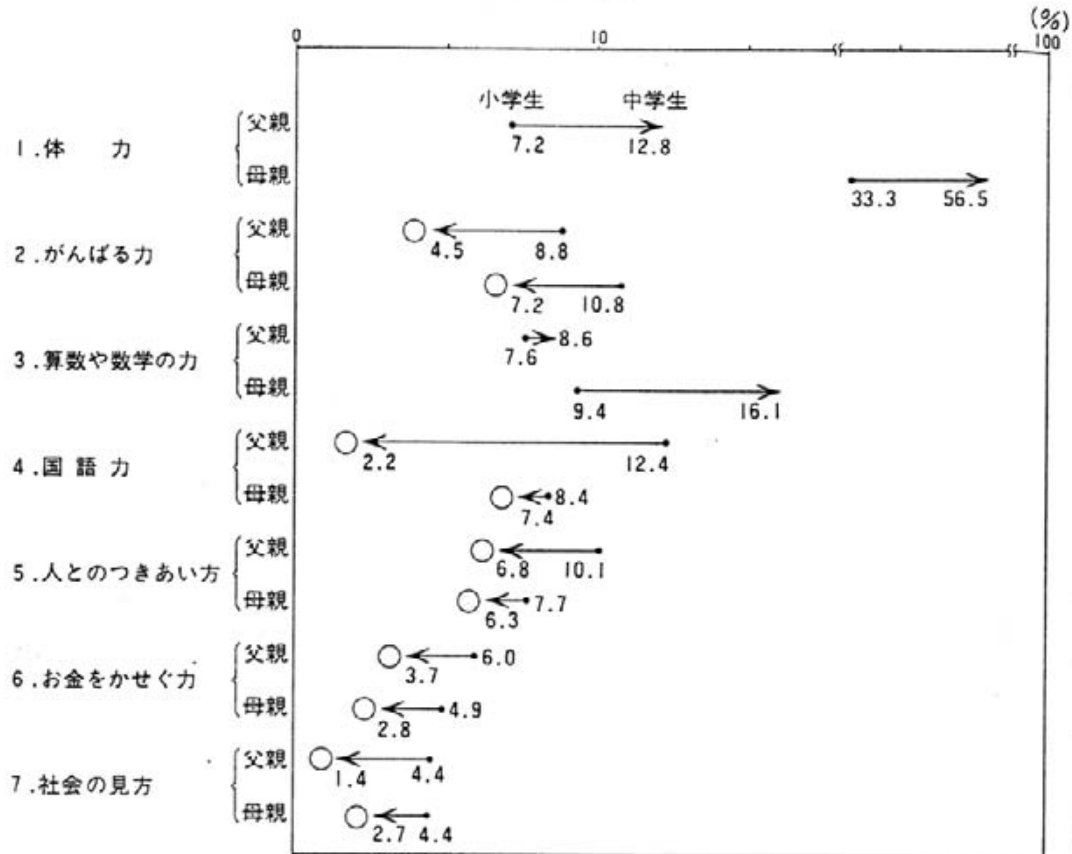
(%)

| 満足していないか | 項目 | 小学生 | 中学生 | 割合 (中学生/小学生) |
|----------|----------------|------|------|-----------------|
| | | (%) | (%) | |
| 満足していないか | (1) お父さんは | | | |
| | 01. 今の仕事に | 40.2 | 30.5 | 75.9 |
| | 2. あなたのお母さんに | 46.5 | 30.0 | 64.5 |
| | 3. あなた(子どもたち)に | 36.0 | 19.2 | 53.3 |
| | (2) お母さんは | | | |
| | 1. あなたの家庭に | 40.5 | 26.4 | 65.2 |
| | 2. あなたのお父さんに | 46.2 | 27.8 | 60.2 |
| | 3. あなた(子どもたち)に | 38.7 | 20.9 | 54.0 |

「とても満足しているだろう」の割合

図18 父親・母親を越えたか(小・中学生)

—父親を越えにくくなる—



「もうお父さん・お母さんを越えたと思う」割合

表19 父親・母親を越えそうか(中学生)

(%)

| Category | 母親を | | | 父親を | | | 割合 (B/A) |
|-------------|------|------------|--------|------|------------|--------|----------|
| | 越えた | 中学をおえる頃越える | 小計 (A) | 越えた | 中学をおえる頃越える | 小計 (B) | |
| 1. 体力 | 56.5 | 24.8 | 81.3 | 12.8 | 24.2 | 37.0 | 45.5 |
| 2. がんばる力 | 7.2 | 23.8 | 31.0 | 4.5 | 25.6 | 30.1 | 97.1 |
| 3. 算数や数学の力 | 16.1 | 20.5 | 36.6 | 8.6 | 18.1 | 26.7 | 73.0 |
| 4. 国語力 | 7.4 | 22.3 | 29.7 | 2.2 | 12.4 | 14.6 | 49.2 |
| 5. 人とのつきあい方 | 6.3 | 17.6 | 23.9 | 6.8 | 14.0 | 20.8 | 87.0 |
| 6. お金をかせぐ力 | 2.8 | 8.3 | 11.1 | 3.7 | 2.8 | 6.5 | 58.6 |
| 7. 社会の見方 | 2.7 | 13.1 | 15.8 | 1.4 | 6.4 | 7.8 | 49.4 |

3. 現代の望ましい父親とは



☺☺ パートナー型の父親の功罪 ☺☺

すでにふれてきたように、パートナー型の父親はそれなりの必然性を伴って登場してきた。そこで、こうしたパートナー型の父親の登場が、子どもの人間形成にどのような意味をもつのか、その功罪を考えてみることにしたい。まず「功」をあげてみよう。

①民主的な態度が育ってくる。アメリカの文化人類学者・キングボール・ヤングは、子どもをしつける型と国民性との関係を分析して、専制的なしつけをする社会からは、権威に追従するような人間が育ちやすいが、民主的なしつけの文化をもつ社会からは、自主性に富んだ子どもが育つと指摘している。そして前者の例としてドイツをあげ、ナチズムを生んだ原因は子どもの自主性を認めない養育文化にあると述べている。

日本の家庭も、かつての父親は問答無用で

子どもを押えつけてきた。そうした家庭では、対等に話すという習慣が作られにくい。したがって子どもたちも、成人してから父親がそうであったように、自分が権威をもつか、あるいは権威に追従するかの二つの行動様式をとるようになる。つまり、対等の中での話し合いが苦手な子が育ってくる。

それに対し、現代の父親は権威をふりまわさずに、子どもの意見にも耳を傾けようとしている。したがって子どもたちも伸び伸びと自分の意見を言う態度が身についてくる。こうした態度が定着するなら、パーソナリティの面から民主的な人間が育ってくる可能性が強い。

②伸び伸びとした女の子が育ってくる。かつての母親は、カカザの権威をもっていたといってもいざとなれば、母親は父親に追従せ

ざるをえなかった。特に士族の流れをくむ家庭では、下女のように父親につかえる母親が少なくなかった。

こうした家庭の場合、女の子は母親の姿をみて、女性であることに誇りをもつことができな

ない。数年前に筆者は、社会の第一線で活躍している女性の家庭環境を調べたことがある。そして、彼女らの父親に妻を大事にするタイプが多いのに驚いた。父親が母親をひとりの人間として扱い、母親の意見を尊重する。そうした家庭で育つ娘は、女性であることにひけ目をもたず、いわゆる女性らしいしつけを受けないですむ。女の子だからという理由で、男の兄弟が遊んでいるのに、家事を手伝わされたり、進学にあたって、気の進まぬ女子校へ入らないですむ。そうしたしつけの蓄積が社会にはばたく女性を生みだす源となる。

それと同じように、現代のやさしい父親のもとから、性差にとらわれない女性が育ってくる可能性が強い。

③個性的な人間が育ってくる。父親のもつ価値観で子どもを鑄型にはめこむようなしつけをしないから、子どもたちは個性を十分に伸ばすことができる。特に進学や進路選択にあたって、親の無理解に悩む子どもが減るのはたしかであろう。

そうした効用の反面、パートナー型は新しいタイプの父親像であるだけに、過渡期につきものの混乱から思わぬ弊害を招くことも考えられる。そこでパートナー型の父親のはらむ「罪」をあげると以下の通りとなる。

①意欲に乏しい子が育ちやすい。父親が表出型の役割に近づくのはよいとしても、その傾向があまりに強まると、家庭の中に目標を提示したり、善悪のけじめをはっきりさせたりするおとなが不在となる。その日その日が幸せなら満足、というようなやる気に欠ける子どもが育ってくる可能性が強い。

子どもたちが成長をするのに、導きの星と

なるような役割を果たす人の存在が不可欠だという。ああいう人になりたい、とその人の行動を模倣し価値観を一致させようとする。社会学的に「意味のある他者」とよばれるそうした役割を、かつての父親は果たしていた。もちろん子どもが成長するにつれて、教師や先輩、ときには伝記上の人物が「意味のある他者」となるが、多くの子どもにとって、最初の「意味のある他者」は父親であろう。男の子は父親と同一視することで、自分の将来を設計し、女の子は、父親を基準に据えて未来の結婚相手を考える。しかし表出型であり過ぎる父親のもとで育つ子どもは、そうした導きの星を見いだしにくいのではないか。

②男の子らしい男の子が育ちにくい。効用の項でふれたように、やさしい父親から伸び伸びとした女の子は育ちやすい。そうした反面、男の子は父親から男らしさを確認しにくい。

なぜなら、かつての亭主閑白の時代なら、男の子は閑白の座にすわる父親を見習い、自分も閑白になるよう努力すればよかった。それに対し、現代の父親は権力をあらわにしないから、子どもにとってとらえにくい存在となる。そのうえ出産や育児・家事のような、家庭内で確認できる具体的な行動は女性的な役割と考えるから、それらに自分を同一視することもできない。その結果どういう行動をとるのが男の子らしいのかがわからなくなってくる。そうした意味で表出型の度合いの強い家庭の場合、男の子の成長が気がかりとなる。

③ひ弱な子が育ちやすい。父親に対する反抗は親の胸を借りて自分の力を培う過程としての意味を含んでいるが、しかし表出的に過ぎる父親では、ターゲットの機能を果たしにくい。そのため権威とぶつかった経験の乏しい子どもが育ってくる。弱い者が相手だとわがままいっぱいにするが、少しでも手強い相手に会うと退却するような、内弁慶の子になりやすい。

父親としてとるべき態度

これまでふれてきた傾向をふまえ、パートナー型の父親が、予想される弊害を少なくし、特色を発揮するにはどうしたらよいか、いくつかの処方箋を書いておきたい。

①ことさら父親らしさを意識せずに。かつての父親像は、現代の父親のモデルになりにくいし、かといってアメリカやヨーロッパの父親の姿も、それぞれの文化的な背景をもって成り立っているから、これからの参考になりそうにない。

新しい時代の父親像なのであるから、父親とはかくあるべきというような固定観念にとらわれず、それぞれの個性に応じて伸び伸びとふるまえばよいのである。日曜日の昼、自慢のスバゲッティを作るのが、父親の腕のみせどころと思う人がいてもよいし、テレビのニュースを見ながら社会情勢を説くのが父親らしさだと考える人がいてもよい。とにかく過去の父親らしさにとらわれず、新しい父親らしいモデルを各人が開発すべきであろう。

②父親と母親の役割分化を。今まで述べてきたことと矛盾するようだが、あまりに同質的すぎる夫婦の場合、少なくとも子どもに対しては父親と母親の役割を分化させておくのが賢明であろう。もっとも専業主婦のいる家庭では、父親の出番は子どもが小学4～5年生になり、世の中のことがわかるようになってからになる。それまでの間は、子どものよき遊び相手になっていれば十分である。そして子どもが10歳くらいから成人するまでの10年間で勝負の時になる。

ここでユング派の「切断する」と「包含する」でも、パーソンズの「道具的」と「表出的」でもよいが、そうした概念が重要になる。前の章で、そうした父親観は過去の社会慣習に根ざしたものと述べた。しかしそれは「切断する」を父親、「包含する」を母親の役割と、無

条件に固定化してとらえ、そうした違いが性差に由来するかのように考える見方を批判したのであって、子どもが成長するために、二つのあい異なる役割に接したほうが望ましいのは否定しがたい。

もちろん夫婦のキャリアによって、妻が切断する役割をとってもよい。しかしおおかたの夫婦の場合、社会慣習とか職業的な経験などから考えて、父親が道具的、母親が表出的の役割をとるほうが無難であろう。

つまり子どもが児童期後期に入るくらいの年齢になったら、それから10年くらいの間、夫婦の間で役割を意識的に分化し、父親と母親とがそれぞれのパートを演じ分けるのが理想的であろう。実際には、夫婦の意見が一致している場合でも、塾通いや進路、大きな買い物などの最終決定は父親が行い、母親はどちらかといえば、子どもの不安やうっせきした気持ちを受け入れる役割を演じるのである。

③父親としてよりも、人間としての生き方が問われる。今まで多くのデータを示してきたように、子どもたちは父親の生活信条や職場での仕事ぶりに関心を抱いている。今も昔も、子どもたちの、尊敬できる父親をもちたいという気持ちには変わりはないのである。もっとも子どもたちとて、父親がスーパーマンのように活躍しているとは思っていない。失敗談はそれなりに、そして、苦心談も飾らずに話してやればよいのである。

特に子どもが小学校高学年になったら、人生の先達として、折にふれて、自分の生き方を話して聞かせる必要があるだろう。となると、父親自身の人間としての生き方をも問われることになる。これまでのデータを通じて、なにかに打ち込んでいる父親に子どもたちは高い評価を与えていた。職業に自分を打ち込める父親は幸せだが、打ち込む対象は読書でも、

カメラでもよい。子どもたちは、そうした意欲的な父親に誇りを感じ、父親のようになろうとするのである。

④そして最後に、父親たちよ、自信をもて。父親の権威失墜はマスコミの描きだした幻にすぎない。父親たちが考えている以上に、子どもたちが父親を信頼しているのは、すでに述べた通りである。したがって父親としての

自分に自信をもち、堂々と胸を張って生きていってほしい。そうした父親の姿を子どもたちも望んでいるのであるから。

※1、3章については、拙著『ぼくはお父さんに叱られたい』（日本書籍）の一部を補筆、削除したことを付記しておく。



※おことわり：本文中に使用した写真は、本文・テーマとは一切関係ありません。